

キリスト教学

科目のねらい

「建学の精神」を深く理解し、実践することができるために、人類が読み継いできた「聖書」を学ぶことによって、各々の持っている固有の使命に気づき、その実現を図る力を養う。

担当教員	西内みなみ
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	1年生
時間数	30
単位数	2

授業の概要

キリスト教について「聖書」を読み、信仰や祈り、聖歌について学ぶ。創設者聖マルグリット・ブールジョワについて学び、その生涯と祈りが、「建学の精神」であることを理解する。学びを通して「愛と奉仕に生きる」ことに主体的に取り組む態度を表していく。

到達目標

キリスト教と「建学の精神」についての知識・技能を修得する。

キリスト教と「建学の精神」にある豊かな心と深い教養に根ざす思考力・判断力・表現力を身につける。

「建学の精神」である「愛と奉仕に生きること」を実践的・体験的に学び、多様な人々と協働して主体的に取り組む態度を表す。

各回の内容

- 「建学の精神」の歴史的・宗教的背景
聖マルグリット・ブールジョワ生誕400周年記念講演
- 聖書とキリスト教学 導入
聖マルグリット・ブールジョワ生誕400周年講演
- 建学の精神とカトリック教育
設置母体であるC.N.N.の教育ミッションとカトリック教育について
- キリスト教とカトリック教会
聖書を通して、建学の精神の理解を深め、カトリック教会との関係を理解する
- 愛するということ
生きる支えになる「愛された記憶」
- 自分自身を愛するために
セルフイメージの大切さ
- 関谷義樹神父から学ぶ
インサイトセッション
- キリストの誕生
待降節とは
- キリストの誕生
待降節とテゼの祈り
- キリストの誕生
テゼの祈りの反転授業とあなたにとってのクリスマス
- キリスト教学と祈り
R.ニーバーの祈り 勇気と冷静さと知恵を祈る
- 平和と正義 ゆるすということ
他人をゆるすことは、自分をゆるすこと、ペシャワール会と中村哲医師
- 東日本大震災から10年
10 Things to Learn from Japan、本島等『長崎市長の言葉』にみる戦争と信仰
- キリスト教学 と「建学の精神」についてのまとめ
知識理解度課題の実施と課題レポートの提出
- キリスト教学 と「建学の精神」についてのまとめ
知識理解度と課題レポートの確認

キリスト教学

準備学習（予習・復習等）

『聖書』を通読しておく。参考文献を図書館で借りて読んでおく。授業で紹介される参考文献を読む。授業で紹介される様々なキリスト教関連のイベントに参加してみる。主体的、実践的、体験的にキリスト教の価値観や「建学の精神」について学ぶ。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

新型コロナウイルス感染症予防のため、基本的には講義を行う。講義の中で主体的・対話的な深い学びを実施する。祈りを実践する。キリスト教や「建学の精神」についての学校行事で獲得した知識・技能・態度を反転授業で振り返る。キリスト教や「建学の精神」について知識・技能・態度を身につける。

評価方法

参加態度(リアクションペーパー)50%、課題レポート30%、知識理解課題20%

教科書

『新共同訳聖書』日本聖書協会
西内みなみ『愛された自分に出会う時 自分自身を愛するために』ドン・ボスコ社

参考文献

日本カトリック司教団『いのちへのまなざし』【増補新版】2017年 カトリック中央協議会
講談社『ローマ法王の言葉』2019年

福祉学（ボランティアワーク）

科目のねらい

建学の精神に基づき、「愛と奉仕」「共に生きる」とはどのような「生き方なのか」について自ら考え、実践する態度を養う。多様な人々によって構成されている現代社会において、「自分とは違う他者を尊重」する姿勢を身に着けることで、社会の中における自分自身の価値にも気づいて欲しい。その上で、地域社会が抱える課題にも関心を寄せ、時代が要請する新しい地域共同体をどのように創り出すことができるか、という問題意識も養う。

担当教員	築田美抄・畑伸秀・奥田美由紀
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	全1年
時間数	講義10時間、課題5時間
単位数	2

授業の概要

本年度はコロナウイルスの感染予防の観点より、暫定的に、授業の構成を講義と課題学習によって実施する。詳細は授業開始時のガイダンスにて説明を行う。

（参考：従来の方法）本科目は、キャンパスプログラムとして7回の講義と、オフキャンパスプログラムとして、全学生が各自30時間のボランティア活動に参加することによって構成される。7回の講義においては、モデル的なボランティア活動に携わられている実践家の方々を講師として招聘し、ボランティアの実際の様子を知ることに加え、福祉の理念や実践の意義を具体的に理解する。また30時間のボランティア活動については、学生が各自、ボランティアセンターの情報を活用して、自ら選んだプログラムに参加していく。

到達目標

地域社会や地域貢献への理解が深まり、他者と共に生きる社会構成員としての責任感を習得できる。

学生の多様な物の見方を促し、ボランティア活動への関心を高めることができる。

「就業力」に結びつく質の高いボランティア活動を体験できる。

学生たちのスキルが高まり、資格(栄養士・幼稚園教諭・保育士など)取得の一助となる。

各回の内容

1. 講義 : 「ボランティアの体験談 / ガイダンス」5月22日(金)5時間目
2. 講義 : 「ボランティアの体験談 / 社会における責任とは」 5月29日(金)5時間目
3. 課題学習 : 講義 についてのレポート課題
4. 課題学習 : 講義 についてのレポート課題
5. 講義 : 「ボランティアの体験談 / 地域社会の課題とは」6月5日(金)5時間目
6. 課題学習 : 講義 についてのレポート課題
7. 講義 : 「現代の社会福祉とは」6月26日(金)
8. 課題学習 : 講義 についてのレポート課題
9. 講義 : Sister鶴野先生による講話 7月17日(金)
10. 講義 : Sister鶴野先生による講話 7月31日(金)
11. 課題学習 : 講義 と についてのレポート課題
12. 講話 :
13. 講話 :
14. 講話 : (テーマ) 海外におけるボランティア活動(講話:シーエスアールスクエア)後期(金)5時間目
15. 講話 (テーマ) ボランティアという生き方(ルワンダの教育を考える会)
令和3年1月15日(金)5時間目

福祉学（ボランティアワーク）

準備学習（予習・復習等）

都度、講義の内容の要点を提示するので、その部分を中心に、自ら文献やインターネットで調査をした上で、講義に臨むこと。

（参考：従来の方法）ボランティアとしての活動内容は一律のものではないため、実状に応じた対応が求められる。日常的にボランティアセンターの掲示をチェックし、ボランティアの募集情報によって、ボランティアの目的、日時や場所、内容などについて事前によく調べ、必要に応じてボランティアセンター窓口に相談する。実施後は、実施時間の記録を各自残し、最終課題（レポート）に備える。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本年度は、暫定的に遠隔授業を取り入れることにより、担当教員による5回の講義/課題学習5回/ゲスト講師による5回の講話により、15回の授業を構成する。

（参考：従来の方法）7回の講義においては、現在、第一線で活躍されているボランティアの実践家の講義を聴講することにより、より実際の、具体的な現場状況を把握することを目指す。その上で、担当教員（精神保健福祉士）としての知見から、学生が学ぶべきポイントをコメントすることによって、「福祉」の意義と「ボランティア」の結びつきを学術的なレベルで理解することによって「福祉学」としての学びを行う。

30時間のボランティア活動においては、多様な進路希望を持つ学生一人一人が、自身の将来に結び付けられるプログラムを選んで参加することを奨励する。

評価方法

課題学習5回により評価を行う。

（参考：従来の方法）ボランティア活動実績報告書とボランティア活動レポート80%、授業参加振り返りシートによる評価20%

教科書

なし

参考文献

図書館に関連図書多数

福島学

科目のねらい

「建学の精神」を深く理解し、実践することができるために、人類が読み継いできた「聖書」を学ぶことによって、各々の持っている固有の使命に気づき、その実現を図る力を養う。また、ボランティア活動などの体験を通して、知的・情緒的、倫理的に成長し、多様なもの見方や社会に対する認識ならびに責任感を養うための科目である。

担当教員	三瓶千香子・山下敦子・岩井千華
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科・全学年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

COVID-19感染拡大予防の観点より当科目は「抽選制」を採用し、聴講数は50名と限定する。

・地元学としての意義を基礎に置きつつも、福島県の現状に立ち、最重要課題が地域の復興、再生であることを認識し、福島県の産業によって、学生自らが気づきや感動を得て、主体的なかかわりを創造していく授業である。

到達目標

学生自らが、主体的に「復興」を考えるとともに、当事者性をもって地域に貢献し、地域の復興を支援する力を少しでも修得する。さらに、学生自身の将来と福島県をはじめとする東北の復興を自らの課題にできる。

各回の内容

- 【5月15日（金）】なぜ「福島学」を学ぶのか ~今年のテーマ：SDGs~（対面型）
- 【6月12日（金）】SDGsの調査レポートに基づくグループワーク（zoomによる同時双方向型）
- 【6月19日（金）】南相馬市に残る課題からみる福島復興（zoomによる同時双方向型）
- 【7月11日（土）】南相馬から考える福島復興論1（zoomによる同時双方向型）
- 【7月11日（土）】南相馬から考える福島復興論2（オンデマンド型）
- 【7月11日（土）】南相馬から考える福島復興論3（オンデマンド型）
- 【8月7日（金）】SDGs×福島復興論（zoomによる同時双方向型）
- 【8月19日（水）】オーストラリア×福島×SDGs論1（zoomによる同時双方向型）
- 【8月19日（水）】オーストラリア×福島×SDGs論2（zoomによる同時双方向型）
- 【9月5日（土）】SDGs×私たち～当事者性を考える1～（zoomによる同時双方向型）
- 【9月5日（土）】SDGs×私たち～当事者性を考える2～（zoomによる同時双方向型）
- 【9月5日（土）】SDGs×私たち～フィールドワークって何～（zoomによる同時双方向型）
- 【10月9日（金）】SDGsと私のアクションプラン考1（zoomによる同時双方向型）
- 【10月16日（金）】SDGsと私のアクションプラン考2（zoomによる同時双方向型）
- 【10月23日（金）】地域を学ぶ意味とは～福島学まとめ～（対面型授業）

福島学

準備学習（予習・復習等）

- ・SDGs、復興、オーストラリアに関するニュースにアンテナを立て、ニュースをまとめておくこと。
- ・事前に出された課題を必ずやってくること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・COVID-19感染拡大予防の観点より、基本的に遠隔授業とする。授業内容によって、オンデマンド型（Microsoft streamを活用予定）と同時双方向型（zoomを活用予定）を使い分ける。
- ・Office365の基本操作、zoomの基本操作については理解しておくこと。
- ・なお、聴講デバイスの指定は特にしないがPCでの受講が望ましい。

評価方法

- ・授業や視察における振り返りシートやレポートの記述 80%（振り返り気づきの提出は、Microsoft Formsを活用予定）
- ・授業や視察における積極的な姿勢 20%

教科書

なし

参考文献

- ・池田清彦・養老孟司『ほんとうの復興』新潮社、2011年
- ・室崎益輝ほか『震災復興の論点』新日本出版社、2011年
- ・朝日新聞特別報道部編『プロメテウスの罠』1～9、学研パブリッシング、2013年
- ・桜の聖母短期大学『「福島学」から「移動文化祭」までの道のり～学生が編み出した復興支援プロジェクト～』（ACF福島学シリーズ6）アカデミア・コンソーシアムふくしま、2013年
- ・木村真三『「放射能汚染地図」の今』講談社、2014年
- ・開沼博『はじめての福島学』イースト・プレス、2015年
- ・川口マーン恵美『復興の日本人論 誰も書かなかった福島』グッドブックス、2017年
- ・一ノ瀬正樹・早野龍五・中川恵一『福島はあなた自身 震災と復興を見つめて』福島民報社、2018年
- ・カンニング竹山『福島のことなんて、誰もしらねえじゃねえかよ!』ベストセラーズ、2019年ほか

国際平和論

科目のねらい

「建学の精神」を深く理解し、実践することができるために、人類が読み継いできた「聖書」を学ぶことによって、各々の持っている固有の使命に気づき、その実現を図る力を養う。また、ボランティア活動などの体験を通して、知的・情緒的、倫理的に成長し、多様なもの見方や社会に対する認識ならびに責任感を養う。
「建学の精神」を深く理解し、実践することができる。

担当教員	元井貴子
授業形態	講義
学期	後期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	1、2年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

集中講義と沖縄研修によって学びを深める科目である。集中授業では、戦争につき基礎知識を学び、その中からテーマを決めてグループ研究をする。講義の学びをふまえて、3泊4日の沖縄研修に参加し、沖縄戦跡や沖縄の文化に触れことで理解を深める。沖縄研修では研修団の一員として学生が主体的に行動・進行し自主的に学んでいく。

*本科目では沖縄研修への参加が履修条件となる。

到達目標

世界には紛争や対立によって、欠乏と貧困にあえぐ人々がいることを知り、世界平和について考えることができる。人類の戦争の歴史を振り返り、平和の尊さや命の大切さを理解し、平和のためにできることを考察することができる。また、沖縄の文化を体験することで、異文化への理解を深め、異文化間の協調及び相互理解による平和の実現についても考察することができる。

更に、グループ研究及び沖縄研修を通じて全員が積極的に協力し合い自己の役割と研修の目的を全うすることができる。

各回の内容

1. 戦争とは何か（第2次世界大戦について）

2. テーマ別研究

3. テーマ別研究

4. テーマ別研究

5. テーマ別研究

6. 沖縄研修

7. 沖縄研修

8. 沖縄研修

9. 沖縄研修

10. 沖縄研修

11. 沖縄研修

12. 沖縄研修

13. 沖縄研修

14. 沖縄研修

15. 研修のまとめ

国際平和論

準備学習（予習・復習等）

平和論、沖縄問題などに関する書籍を読む。
ニュース等の報道や時事問題にも積極的に触れ、関心を高めること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

事前学習において沖縄の戦跡に関するグループワークを実施し、その結果をプレゼンテーションをする。

評価方法

グループ別研究に関する課題40%、事前講義及び研修中における貢献度20% 研修後のレポート40% による総合評価

教科書

なし 資料を配布する

参考文献

授業時に紹介する

哲学

科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養う科目である。（教養科目群）

担当教員	小原 拓磨
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1・2年生合同
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

哲学とは「疑問をもつこと」、「考えること」を基本とする学問である。そこでこの授業では、普段あたりまえのこととして見過ごされている身の回りの物事についてあらためて疑問に思い、問いを深めることから始めて、哲学の伝統的問題へと開かれることを目標とする。また、そのように物事を客観的に眺めて思考することを通じて自己反省を促し、自分の価値観が単なる私見や偏見である疑いをもたせ、ひいては他者の価値観を公正に扱えるようになることを目指す。

到達目標

- ・西洋哲学の基礎的な知識や考え方を知ることができる。
- ・日常の物事について哲学的に考えることで、これまでとは違った観点で見られるようになり、柔軟な思考が身に着く。
- ・哲学的な問題設定および問題の考え方をもとに、現代社会の複雑な問題について本質的な観点で考察できるようになる。
- ・物事を本質的に眺める態度が養われ、自らの専門領域への洞察が深まる。
- ・変動し多様化する社会情勢のなかで、他者に流されることなく、自分に固執することもなく、自分の在り方を冷静に分析し、他者との適切な関係を保つ、真の意味での「生きる力」のヒントが得られる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 「子どもの問い」を考える
3. 友情と愛情
4. 「ジブリ作品」を哲学的に読み解く
5. ファッションの現象学
6. 消費社会　　ひとは何を消費しているのか？
7. ショッピングとナルシズム
8. 仮面の本質　　外見と内面の弁証法
9. 自己　　就活・婚活の「自分らしさ」イデオロギー
10. 現実性と心身問題　　映画『マトリックス』をもとに
11. 時間、死、無意識
12. 演習（1）カフカ『掟の門』についてグループ討論
13. 障害と優生思想（1）出生前診断と「命の選別」
14. 障害と優生思想（2）「相模原障害者施設殺傷事件」の思想
15. 演習（2）「死刑制度」についてグループ討論
16. 試験

哲学

準備学習（予習・復習等）

予習：配布される資料をあらかじめ読み、そこで論じられる主題について自分なりにポイントをまとめ、また、分からない点を明確にしておく。
復習：授業で関心をもった主題について、紹介する参考文献を図書館等で入手し、各自でさらに考察する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

ほぼ毎回リアクションペーパーの提出を求め、次回、口頭またはプリントにて応答する。また、「演習」の回ではグループごとにテーマについて資料をもとに議論してもらうため、アクティブラーニングとなる。

評価方法

学期末に行なう論述式試験（40％）、ほぼ毎回実施するリアクションペーパー（40％）の記述内容、グループワークでの積極性（20％）で評価。

試験の解説等は、試験の形式上各自で回答が異なるため、希望する者にかぎって個別で応じる。

教科書

なし。毎回、資料を配布。

参考文献

その都度授業で紹介する。

心理学

科目のねらい

(2) 教養科目群
学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養う。

担当教員	後藤真
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

人間観の変遷、ヒトの感覚と知覚、社会的行動、ライフサイクル、臨床心理学とこころの健康、性格と人格、ストレスコーピングスキル、等について概説する。また、少人数によるグループワークも積極的に取り入れていく。

到達目標

心理学全般についての基礎的知識を身につける。また、心理学の知見に基づき、こころの複雑な働きに対する興味・関心を培うと共に、自らの日常生活に密接した諸問題を心理学的に捉えることができる。

各回の内容

1. 導入
2. 社会の中の自己
3. 人間観の変遷と心理学の発展
4. 感覚・知覚の心理
5. 記憶のメカニズム：効果的な学習
6. 発達理論と発達段階
7. セルフィメージと自尊感情
8. ライフサイクルにおける大学生期：個性
9. ライフサイクルにおける大学生期：社会性
10. 行動心理：コミュニケーション
11. ストレスとコーピング
12. 「癒し」と心理療法
13. ルーツとしての家族
14. ツールとしてのsystemic approach (システミックアプローチ)
15. 自己洞察と他者理解の心理

心理学

準備学習（予習・復習等）

予習：各回授業で予習すべき内容（重要語句や心理学に関連する記事等）について指示する。

復習：授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、必要に応じてレポートの作成および提出を求める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

理解を深めるため、講義だけでなく少人数でのグループワークおよび意見交換や課題の検討も取り入れる。また、基礎的な事例検討も行う。

評価方法

授業レビューシート40%、中間レポート30%、期末レポート30%

教科書

授業時に紹介する

参考文献

上田紀行『生きる意味』岩波新書（新赤版931）

心理学（CE）

科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。

担当教員	築田美抄
授業形態	単独
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	
時間数	
単位数	2

授業の概要

本年度は、暫定的に遠隔授業を中心とする実施方法となるため、従来の心理学の学び方と切り口を替え、遠隔授業ならではの内容を計画し、「心」を理解する効果的な学習内容を計画する。

（参考：従来の方法）心理学は、人間を理解する基礎学問のひとつとして、「行動の科学」と位置付けられている。つまり、狭義の「心」のみが対象ではなく、人間の行動全体が、関心の対象となっている学問である。本講義では、心の3要素である「知・情・意」を理解した上で、そこから展開する人間の行動に関する専門分野をいくつか取り上げる。

到達目標

「心」に関する学問的知見を正しく理解し、「心」に対する専門的関心を高める。

心理学の学びを通して、人間の行動に対する理解と気づきの視点を養い、人間を取り巻くさまざまな現象を考察できる力を身につける。

各回の内容

1. 心理学を学ぶにあたって
～「ごきげんよう」と「リベラル・アーツ」～

2. 課題学習1：「不機嫌」

3. 課題学習2：「本当の自由」

4. 「心」とは
～「不機嫌」と「本当の自由」から理解する「心」のメカニズム～

5. 課題学習3：「感覚・知覚」の不思議に気付こう

6. 課題学習4：「学習」のプロセスに気付こう

7. 「知」は他者とともに育つもの
～グループ学習の不思議～

8. 「情」の多様性
～喜怒哀楽から「愛」に至るまで～

9. 「意」の七変化
～あなたの「欲しい」は本当か？～

10. 「心」と「脳」
～最新の研究知見～

11. 精神分析 第1講 - 1
「錯誤行為」総論

12. 精神分析 第2講 1
「夢分析」総論

13. 精神分析 第2講 - 2
ビデオ鑑賞「河合隼雄スペシャル」

14. 精神分析 第3講 - 1
「神経症」総論

15. 精神分析 第3講 - 2
ビデオ鑑賞「アルプスの少女ハイジ」

16. 試験

心理学（CE）

準備学習（予習・復習等）

都度、次回の講義に関して、下調べをしておく内容を指示する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本年度は、暫定的に遠隔授業の形式となるが、具体的には、スライド配信と課題（百人一首の書き写し/心理学的視点の要点まとめなど）を予定。

（参考：従来の方法）基本的には講義形式の授業であるが、本科目は、日々の日常生活で体験していることに直結する内容であるため、テーマによっては、教員が提示したクエスチョンについての話し合いや、問題解決を試みるグループワークを取り入れる。また、担当教員自身の心理学の知見に基づいた対人支援の実務経験（精神科病院、刑務所、労働基準監督署など）により、精神障害、犯罪心理学、労働者のメンタルヘルスなどの今日的な話題を取り入れる。

評価方法

課題20%、試験80%

教科書

使用しない

参考文献

都度、必要に応じて紹介する。

経済学

科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。（教養科目群）

担当教員	山野実
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

経済学の基礎理論を習得し、経済にかかわる現代の諸問題や私たちが日常生活で行う経済行為を経済学的な観点から考察する。

到達目標

- (1) 経済学の基礎的な知識を理解し身につけることができる。
- (2) 経済学的な思考法を身につけることができる。
- (3) 現代社会における諸課題について、経済学的な観点から理解し考察することができる。

各回の内容

1. 経済学の主要概念・考え方
- 経済学を学ぶ上で基礎となる考え方を学ぶ
2. 需要と供給の理論（1）
- 需要曲線と消費者行動
3. 需要と供給の理論（2）
- 供給曲線と企業行動
4. 需要と供給の理論（3）
- 市場取引と資源配分
5. 不完全市場（1）
- 不完全競争
6. 不完全市場（2）
- 情報の非対称性
7. 不完全市場（3）
- 外部性、公共財
8. ゲームの理論
- 戦略型ゲームと展開型ゲーム
9. マクロ経済の基礎
- GDPとその他の指標
10. マクロ経済政策（1）
- 財政政策、日本の財政
11. マクロ経済政策（2）
- 貨幣の役割、金融政策
12. 国際経済
- 貿易の利益、為替
13. 日本経済の歩み
- 戦後の経済復興期から今日までの歩み
14. 日本経済の現状と課題（1）
- 少子高齢化、人口減少に起因する課題
15. 日本経済の現状と課題（2）
- 所得格差、地域格差
16. 試験

経済学

準備学習（予習・復習等）

各回の授業の最後に予習内容を示す。

授業で取り上げた内容について各自復習することを基本とするが、学んだことの理解度、定着度等の確認のため小テストを4回実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

面接授業及び遠隔授業（オンデマンド型）により実施する。

評価方法

試験60%、小テスト40%、いずれも採点后に返却する

教科書

米本清ほか（2018）『経済学入門』みらい

参考文献

スティグリッツ（2012）『入門経済学』（藪下史郎他訳）東洋経済新報社
マンキュー（2019）『入門経済学』（足立英之他訳）東洋経済新報社

法学

科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養う。
学問を探究するために必要な基礎的な知識を修得する

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

法律は日本のルールであるため、社会人になるにあたって基本的法知識の習得は必須のものと言える。しかし、法律は量が膨大であるため、本講義では、社会に出ていく女性として必ず習得してほしい法知識（法律用語及び制度）を厳選し、講義する。日常生活との関りが深い民事法を扱う（民法を中心にして借地借家法や会社法も学ぶ）。また、講義を聴くだけでなく、イメージしやすい事例を使い、自分で考え、結論を出すことを通じて法的な思考方法を学び、問題意識や自分の意見を構築するプロセスも体験する。

到達目標

- ・社会に出て行く女性として知っておくべき法律知識（基本的な法律用語及び制度）を習得できる
- ・法律問題に直面したときに事実を正しく把握した上で、学んだ知識を使って妥当な結論を導き出す応用力を身につけることができる
- ・法律上の争点につき自分で考え、意見を構築することができる

各回の内容

1. 国内の法律概要

2. 民法総則 : 瑕疵ある意思表示及び意思の欠缺～言ったことを取り消したい時の法律～

3. 民法総則 : 成年後見制度と失踪宣告制度～未成年者や高齢者を守る法律～

4. 契約法 : 賃貸借契約と借地借家法～部屋を借りる時の法律～

5. 契約法 : 消費貸借契約 / 物権法 : 抵当権（抵当権とは何か）～家を買う時の法律～

6. 物権法 : 抵当権（抵当権の実行・一括競売等）～競売される時の法律～

7. 契約法 : 契約解除と損害賠償～相手が契約を守ってくれない時の法律～

8. 不法行為：損害賠償・過失相殺・使用者責任～事故にあった時の法律～
第1回確認テスト

9. 保証法：保証契約～保証人になる時の法律～

10. 家族法 : 婚姻～結婚・離婚する時の法律～

11. 家族法 : 嫡出推定・養子～親子に関する法律～

12. 家族法 : 相続 法定相続～相続人は誰か～

13. 家族法 : 相続 遺言・遺留分～誰がどの位相続するのか～

14. 会社法 : 株式・株主～株式会社とは～

15. 会社法 : 会社の機関・取締役の義務～株式会社のしくみと社長の責任～
第2回確認テスト

法学

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につきテキスト及びノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

テキストを使用し、基礎知識を身につけていく。また、事例問題を解く機会を設けることで、論理的思考や自説確立力を身につけていく。

評価方法

確認テスト70%、リアクションペーパー30%

教科書

今日から役立つ民法 鎌野 邦樹（著）ナツメ社2018/12/01

参考文献

その都度、授業で紹介する

日本国憲法

科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養う。
学問を探究するために必要な基礎的な知識を修得する

担当教員	元井 貴子
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1,2年生
時間数	90分 × 15回
単位数	2

授業の概要

憲法は私たちの国の基本となる法であると同時に、近年では、憲法改正等も議論されているため、深い理解が求められている。そこで、覚えてほしい基本的用語から、重要な条文や制度が、どのような意義や趣旨に基づくのか、という点に至るまで深く講義していく。また、憲法上の問題については具体的事案につき検討する機会を設け、自分なりの答えを導き出すワーク等も実施する。更に、講義内容を現実の問題としてイメージできるよう、関連する時事問題にもできるだけ触れていく。

到達目標

- ・日本国憲法の基本原則及び各制度とその趣旨を理解できるようになる
- ・憲法上の争点につき、何が問題となっており、どのような議論があり、どのような意見があるのかを理解し、自分なりの考えを持つことができる
- ・法的思考力を養い、新しい問題に直面した時に問題の所在を把握し、論理的に考えて妥当な結論を導くことが出来るようになる

各回の内容

1. 日本国憲法の基本原理
基本的人権 私人間効力

2. 基本的人権 享有主体性

3. 基本的人権 幸福追求権

4. 基本的人権 法の下での平等

5. 基本的人権 思想良心の自由・表現の自由

6. 基本的人権 経済的自由

7. 問題演習・質疑応答

8. 基本的人権 人身の自由・社会権

9. 統治機構 国民主権と選挙

10. 統治機構 国会

11. 統治機構 議院内閣制

12. 統治機構 内閣

13. 統治機構 裁判所

14. 統治機構 地方自治

15. 問題演習・質疑応答
期末レポート提出

日本国憲法

準備学習（予習・復習等）

- ・講義した範囲につきテキスト・資料・ノートを読み直すこと
- ・重要である旨明示した用語及び争点につき自分の言葉で説明できるかを確認した上で、記憶すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

主に遠隔講義を実施する（3回程度の対面講義あり）。

評価方法

リアクションペーパー 15%
期末レポート 25%
課題レポート 60%

教科書

吉田仁美著『スタート憲法（第3版補訂版）』成文堂

参考文献

その都度、授業で紹介する

教育原理

科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻・キャリア教養学科1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域からr教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向なども学ぶ。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。

到達目標

- ・教育の理念・歴史・思想を学ぶことにより、学校、家庭、社会にかかわるさまざまな教育と人間形成の問題に取り組むうえで重視すべき原理を習得できる。
- ・教育における原理の習得を踏まえて、教育に関する高度で専門的な知識と有機的に関連づけ、深化できる準備ができる。
- ・自らの個人的な体験に基づく教育観や限定的な教育論を相対化し、教育的な原理を普遍化し、現代社会における教育問題を批判的に考察できる。

各回の内容

1. 教育における理念と目的
2. 発達と教育
3. 「子どもの発見」から子ども観の変遷
4. 西洋における近代の教育史
5. ルソー「エミール」に見られる教育観
6. ベスタロッチ・フレーベルの教育思想
7. 我が国における近代教育思想
～学制を中心に～
8. 国家による教育と戦後教育改革
9. 学校制度と関連法令
～「学校」史と現代教育行政～
10. 学校運営と学級経営
11. グローバル社会における教育動向
～PISAが与えた影響～
12. 教えの過剰と主体性
～教育改革とアクティブラーニング～
13. 教育と階層格差
～教育の再生産機能について考える～
14. 学校開放と学校安全
～学校保健安全法とこれから～
15. 生きる力と生涯学習社会
～地域の中の学校とは～
16. 論述試験

教育原理

準備学習（予習・復習等）

- ・新聞またはニュースで教育関連の記事を探し出し、それについてコメントを付けて持参すること。
- ・与えられた課題・テーマについて振り返りシートに記入すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・主としては伝統的講義型の授業である。しかし、内容によってグループワークやそれに基づくプレゼンテーションなどのアクティブラーニングを展開する。
- ・第12講の「教えの過剰と主体性」は、講師の塾経営の経験に基づいた授業を展開する。

評価方法

教育関連のニュース（記事）の検索とそれに対するコメント（予習の態度）20%

- ・授業後の振り返りシートにおける記述（理解度と意見）30%
- ・論述試験50%

教科書

なし

参考文献

- ・汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編 『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。
- ・樋口聡、山内規嗣 『教育の思想と原理 - 良き教師を目指すために学ぶ重要なことがら-』協同出版、2012年。
- ・溝上慎一 『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂、2014年。
- ・松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編 『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房、2015年
- ・その他、今日的な教育動向についてはその都度、新聞や資料を配布する。

教育原理

科目のねらい

学問を探究するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。

担当教員	三瓶千香子
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	福祉子ども専攻子ども保育コース1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

教育の理念、思想、制度、歴史（西洋と日本）などの広い領域から教育学の基礎的知識と現代社会における教育動向を学ぶ。またグローバル社会における視点から諸外国の教育動向なども学ぶ。それに基づいて、現代社会における教育をめぐる改革、諸問題について批判的に考察する。

到達目標

- ・教育の理念・歴史・思想を学ぶことにより、学校、家庭、社会にかかわるさまざまな教育と人間形成の問題に取り組むうえで重視すべき原理を習得できる。
- ・教育における原理の習得を踏まえて、教育に関する高度で専門的な知識と有機的に関連づけ、深化できる準備ができる。
- ・自らの個人的な体験に基づく教育観や限定的な教育論を相対化し、教育的な原理を普遍化し、現代社会における教育問題を批判的に考察できる。

各回の内容

1. 教育における理念と目的
2. 発達と教育
3. 「子どもの発見」から子ども観の変遷
4. 西洋における近代の教育史
5. ルソー「エミール」に見られる教育観
6. ベスタロッチ・フレーベルの教育思想
7. 我が国における近代教育思想
～学制を中心に～
8. 国家による教育と戦後教育改革
9. 学校制度と関連法令
～「学校」史と現代教育行政～
10. 学校運営と学級経営
11. グローバル社会における教育動向
～PISAが与えた影響～
12. 教員の過剰と主体性
～教育改革とアクティブラーニング～
13. 教育と階層格差
～教育の再生産機能について考える～
14. 学校開放と学校安全
～学校保健安全法とこれから～
15. 生きる力と生涯学習社会
～地域の中の学校とは～
16. 論述試験

教育原理

準備学習（予習・復習等）

- ・新聞またはニュースで教育関連の記事を探し出し、それについてコメントを付けて持参すること。
- ・与えられた課題・テーマについて振り返りシートに記入すること。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・主としては伝統的講義型の授業である。しかし、内容によってグループワークやそれに基づくプレゼンテーションなどのアクティブラーニングを展開する。
- ・第12講の「教えの過剰と主体性」は、講師の塾経営の経験に基づいた授業を展開する。

評価方法

- ・教育関連のニュース（記事）の検索とそれに対するコメント（予習の態度）20%
- ・授業後の振り返りシートにおける記述（理解度と意見）30%
- ・論述試験50%

教科書

なし

参考文献

- ・汐見稔幸・伊藤毅・高田文子・東宏行・増田修治編 『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。
- ・森川輝紀『教養の教育学』三元社、2015年。
- ・鈴木翔『教室内カースト』光文社、2012年。
- ・溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂、2014年。
- ・その他、今日的な教育動向についてはその都度、新聞や資料を配布する。

教育心理学

科目のねらい

学問を探求するために必要な幅広い知識と柔軟な思考を身につけ、現代社会における諸課題を正しく理解し、他の領域との関連を考慮しながら考察を深める力を養うための科目である。

担当教員	築田美抄
授業形態	講義
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	CE、D 教職
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

本年は、暫定的に遠隔授業を取り入れた方法で実施をするため、従来の講義形式で扱う内容と、大幅に切り口を変更する。具体的には「教育」と「心」を成り立たせている「言葉」を主に扱う。そのため「言葉」の発達過程を体験する内容を工夫した演習課題を取り入れる。

(参考：従来の方法)「教育」とは「教え、育む」という意味にほかならないが、その働きかけの対象となるのは、主として人間の「心」である。なぜなら「心」というものは「知的能力」「感情、情動」「意志、欲求」の3つの要素から成り立っており、「心」の働きは「人間そのもの」と言えるからである。そして、人は常に「教え」「育まれる」という経験を重ねることにより、日々の営みを成り立たせているともいえる。そのため本講義は「人間を考える科目」とも言えるだろう。

到達目標

教育心理学で扱われている学術的知見を学ぶことによって、専門知識を身につけると同時に、実際の、具体的に「人間」や「教育」について、自身の考えを深め、実践することができる力をつける。

発達や成長は、多角的に捉えられるものであることを知り、人間理解の視野を広げる。

人間の「個性」について、幅広く受け止めることができる価値観を養う。

各回の内容

1. ガイダンス～教育心理学の研究方法与基礎理論

2. 「教育」と「心」を成り立たせる「言葉」

3. 胎児期～乳幼児期の発達

4. 胎児期～乳幼児期の発達

5. 幼児期の発達

6. 幼児期の発達

7. 幼児期の発達

8. 児童期の発達

9. 児童期の発達

10. トピックス「私が小学生のとき」

11. 思春期～青年期

12. 思春期～青年期

13. 思春期～青年期

14. トピックス「生涯発達」

15. トピックス「生涯現役」

16. 試験

教育心理学

準備学習（予習・復習等）

予習は特に必要としないが、授業毎に、当日の講義テーマに関して、復習する内容を指示する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本年度は、暫定的に遠隔授業を取り入れることから、特に「言葉」を切り口として、「教育」と「心」についての学習を進める。
(参考：従来の方法)自身の生活経験から「心の発達」を理解することができるように、過去の経験を振り返る個別ワークや、経験や意見をシェアするためのグループワークを多用する。また、特に乳幼児期について学ぶ際は、その実際の姿や様子を知るためにビデオ教材も用いる。

評価方法

試験 50%

毎授業時における振り返りシート 50%

教科書

使用しない

参考文献

- ・小野寺敦子「手にとるように発達心理学がわかる本」かんき出版
- ・バーバラM.ニューマン他「新版 生涯発達心理学 - エリクソンによる人間の一生とその可能性」川島書店

英語

科目のねらい

This is a skills-based course with a level of TOEIC 300 (英検 3 級). The course will focus on various topics which will be used for in-class group activities. The aim of the course is to provide the students with the necessary grammar and vocabulary to express themselves to the wider English-speaking community.

担当教員	藤平明彦アンドリュー
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

授業の概要

今年度のクラスは2つに分かれます： 対面式 遠隔式

詳しい内容は授業の初日に説明します。

到達目標

Students will develop their reading and listening comprehension skills.
 Students will increase their English vocabulary and grammar for output.
 Students will work together to create English compositions in small groups.

各回の内容

1. Introduction

2. Chapter 1 (April Fools' Day)
Point = Sentence Elements

3. Chapter 2 (Clever Pigs)
Point = Sentence Patterns (1)

4. Chapter 3 (Split the Bill)
Point = Sentence Patterns (2)

5. Chapter 4 (Disney's Dream)
Point = Sentence Structure (1)

6. Chapter 5 (Compact Lifestyles)
Point = Sentence Structure (2)

7. Chapter 6 (Ryo Ishikawa: Record Breaker)
Point = Tense (1)

8. Midterm Review

9. Chapter 7 (Unusual Pets)
Point = Tense (2)

10. Chapter 8 (Staying in Touch)
Point = Tense (3)

11. Chapter 9 (Pet Passports)
Point = Tense (4)

12. Chapter 10 (Tying the Knot at McDonald's)
Point = Auxiliary Verbs

13. Chapter 11 (The Oscars)
Point = Infinitives

14. Chapter 12 (Unique Names)
Point = Passives

15. Final Review

16. Final Class

英語

準備学習（予習・復習等）

（予習） Read and listen to the text, answer the textbook questions, study the vocabulary for the unit.

（復習） Review the answers to the text, questions, and the in-class activity.

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

今年度のクラスは2つに分かれます： 対面式 遠隔式

詳しい内容は授業の初日に説明します。

評価方法

Midterm Review 20%, Final Review 20%,
E-learning 20%, Vocabulary Quizzes 15%,
Textbook Homework 15%, Participation 10%

教科書

『Prism red Second Edition』 Macmillan Language House

参考文献

英語

科目のねらい

本科目は、外国語の基礎的な知識を修得し、効果的に学習する力をつけ、異文化コミュニケーションに必要な表現力と行動力を養うための科目である。

担当教員	佐藤純子
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻 1年
時間数	90分 × 15回
単位数	2

授業の概要

1. 英語および英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。
2. 食物栄養に関する簡単な英語を学び、使う事を通して英語の総合能力を向上させる。
3. 簡単な英語で世界や日本の料理や食文化を紹介する。

到達目標

1. 簡単な英語でコミュニケーションができる。
2. 料理、栄養にかんする簡単な英語が理解できる。
3. 簡単な英語で世界の料理や食文化について理解したり紹介したりできる。
4. 簡単な英語で日本の料理や食文化を説明できる。

各回の内容

1. オリエンテーション、自己紹介

2. 日本の料理の紹介

3. ファストフード店で

4. レストランで

5. メニュー

6. レシピreading

7. 課題発表 調理の英語

8. レシピreading 、簡単なレシピ

9. レシピ作成

10. 栄養素、栄養指導

11. 成分表

12. ダイエット、菜食主義

13. 病気、食の安全

14. サプリ、世界の料理

15. 試験

16. 課題発表 まとめ

英語

準備学習（予習・復習等）

授業の予習（単語やフレーズ、和訳など）、授業の復習（単語やフレーズなど）
試験、小テストの準備
発表、課題の準備

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

各回のテーマ、内容の知識の習得を中心にグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを組み入れる。

評価方法

小テスト 20%、 課題 10% 課題 20%、試験 30%
日常点（授業への参加度、リアクションペーパーなど） 20%
試験等の解答および解説、返却について可能なものは授業内で行う。それ以外は授業内で方法を明示する。

教科書

なし

参考文献

その都度授業で紹介する。

英語

科目のねらい

本科目は外国語の基礎的な知識を習得し、効果的に学習する力をつけ、異文化コミュニケーションに必要な表現力と行動力を養う科目である。

担当教員	野崎佐知
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

- 1.英語および英語でのコミュニケーション能力の向上を図る。
- 2.簡単な英語の歌や手遊びを習得する。

到達目標

- 1.保育の現場において簡単な英語でコミュニケーションができる。
- 2.簡単な英語の歌や手遊びができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、Unit1 You and Me
(挨拶、現在形の疑問文)
2. Unit2 Growing Up
(過去形、過去形の疑問文)
3. Unit3 At Home and at School
(頻度を表す言葉、howを使った疑問文)
4. Unit4 Going Out
(予定に関する表現)
5. Unit5 Food and Drink
(好きなもの・嫌いなもの、レストランでのオーダーの仕方)
6. Unit6 The Future
(未来形の疑問文)
7. Review (スキット作成)
8. 中間課題 (スキット提出)
9. Unit7 Travel
(道案内)
10. Unit8 Entertainment
(買い物や外出に関する表現)
11. Unit9 Staying Healthy
(1日の生活)
12. Unit10 People I Know
(人や性格の説明)
13. Unit11 Storytelling
(お話作り)
14. Unit12 Society
(アドバイスの仕方)
15. Review (スキット作成)
16. 期末課題提出 (スキット提出+まとめの問題)

英語

準備学習（予習・復習等）

- ・予習（単語の意味の確認）
- ・復習（間違った問題や小テストのやり直し）

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本講義はオンライン（オンデマンド方式）で授業を行う。
詳しくは初回の授業で説明をする。（初回のみ対面で実施）

評価方法

Flipgrid 20%、教科書課題 10%、単語の学習 20%、中間課題 20%、期末課題 30%
（オンラインでの授業のため、評価はテストではなく、課題の形で実施をする）

教科書

Herman Bartelen 『Take It Easy!』 センゲージラーニング株式会社

参考文献

その都度、授業で紹介する。

英語

科目のねらい

編入試験および各種英語試験合格を目標に、英文読解に必要な力を養成する。また、社会を取り巻く諸現象や諸課題を理解し、自らの経験と照らし合わせることで柔軟な思考力と社会に対する認識を広げる。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

260語～300語の英文を扱いながら、読解に必要な基本的な文法および読解力をつけていく。
また、語彙力の養成に努めるとともに、話題として取り上げられたことについての基礎的知識を豊かにする。
わからないところはそのままにせず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。

到達目標

前期の目標を下記の3点とする。

読解力：読解に必要な速読力や要点把握力を形成する。

語彙力：語彙力の増強に努める。

知識を深める：社会や文化について論じた英文を読むことで広い視野を形成する。

各回の内容

1. オリエンテーション Unit 1

2. Unit2

3. Unit 3

4. Unit4

5. Unit5

6. Unit6

7. Unit 1 ~ 6

8. 前半総括

9. Unit7

10. Unit8

11. Unit9

12. Unit10

13. Unit11

14. Unit12

15. 後半総括

16. 試験

英語

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解いておくこと。

小テストに向けて復習を怠らないこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

スライドや視覚教材を使うことで、題材の深い理解を促す。

グループワークやペアワークを取り入れ、主体的な問題解決や内容理解の機会を設定する。

新型コロナウイルスが収束するまでは、双方向型の遠隔授業を実施する。

評価方法

小テスト：20%

テスト：70%

授業への参加態度：10%

教科書

" News Matter " (南雲堂)

参考文献

必要に応じて提示する。

英語

科目のねらい

身近な話題から社会問題について自らの意見を、異なる背景や経験をもつ相手に、わかりやすく適切に伝えることができる外国語の表現力と行動力を養成する。基本的なプレゼンテーションの文章構造や非言語コミュニケーション等を活用する能力を身につけ、自らの意見を発信するために必要な素養を高める。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

編入試験および各種検定試験合格目標に、口頭表現発表に必要な力および英作文作成力を養成する。(英検2級レベル)

また、語彙力の養成に努め、話題として取り上げられたことに関しての基礎的知識を豊かにする。

本授業は1時間に3つの単元を1度に扱うことを

前提としているため、わからないところはそのままにせず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。

また、出された課題は期日までに必ず提出すること。

到達目標

前期の目標を下記の3点とする。

視野を広げる：自分の身近なものから社会問題について意見を考えることで広い視野を形成する。

語彙力：英語プレゼンテーションに必要な語彙力や熟語力を増強する

英文構成力：文法事項の理解の他、論理的に意見を伝えるために必要な構成を学ぶ

表現力：非言語コミュニケーションや他のメディア媒体を用いた表現技術の獲得に勤める。

各回の内容

1. オリエンテーション Chapter 1・2・3(導入)

2. Chapter 1・2・3(発展)

3. Chapter 1・2・3(応用)

4. まとめ [国旗の描写を考える]

5. まとめ [国旗の描写を考える]

6. Chapter 4・5・6(導入)

7. Chapter 4・5・6(発展)

8. Chapter 4・5・6(応用)

9. まとめ [物語の描写を考える]

10. まとめ [伝わるスピーチの構成について]

11. Chapter 7・8・9(導入)

12. Chapter 7・8・9(応用)

13. Chapter 10・11・12(導入)

14. Chapter 10・11・12(応用)

15. 前期 まとめ

英語

準備学習（予習・復習等）

指定された課題を行い、発表に備えて十分にリハーサルを行うこと

課題の書き直しを積極的に行うこと

発表課題の作成を規定に準じて創作してくること

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

表現力を中心に養成する科目のため、毎時間グループワークを取り入れ、発信活動を中心とした学習場面を多く設定する。

遠隔授業を取り入れ、対面式での発表と合わせてオンラインでのプレゼンテーション活動を取り入れる。

評価方法

発表課題の提出 30%

振り返りシートの感想 30%

期末のレポート課題 30%

課題発表の姿勢・授業への取り組み 10%

教科書

This is My Presentaion(桐原書店)

参考文献

必要に応じて指示する。

本科目を履修する際、英語力に不安を感じている場合は英語 を合わせて履修することを薦める。

英語

科目のねらい

編入学希望者を対象とした読解力と記述力養成を目的とする。継続的な語彙学習と読解演習を行うことで外国語を効果的に学習する習慣と自律調整学習の力をつける。また、外国語習得に必要な知識とその知識を活用する能力の習得を目指す。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	1
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

英文和訳に取り組み、編入試験で問われる基礎的な記述力・読解力・構文分析力を涵養する。合わせて単語の増強に努めることで、語学力の底上げを図る。

到達目標

複雑な英文を読み解く際に必要な語彙力・文法力・構造分析力を中心に精読力の向上を図る。
日本語での適切な表現を学び、記述力の向上に努める。
単語の増強に努める。

各回の内容

1. オリエンテーション/ 英文の骨子をつかむ

2. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：基礎）

3. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：応用）

4. 英文和訳演習（主語と述語動詞の見極め：発展）

5. 英文和訳演習（分詞：基礎）

6. 英文和訳演習（分詞：応用）

7. 英文和訳演習（分詞：発展）

8. まとめテスト

9. 英文和訳演習（形容詞の後置修飾：基礎）

10. 英文和訳演習（形容詞の後置修飾：応用）

11. 英文和訳演習（形容詞の後置修飾：発展）

12. 英文和訳演習（分詞構文：応用）

13. 英文和訳演習（分詞構文：基礎）

14. 英文和訳演習（分詞構文：発展）

15. 総合問題演習

16. 試験

英語

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解いておくこと。

単語テストについての学習を行うこと

学内・学外で自主課題に積極的に取り組むこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

グループでの討議やペアワークを導入し、対話的な学習機会と主体的な問題解決の機会を設ける。

評価方法

小テスト：30%

テスト：60%

授業への参加態度：10%

教科書

適宜プリントを配布する。

参考文献

必要に応じて指示する。

英語

科目のねらい

編入学希望者を対象に、外国語の理解に必要な知識や技能の習得を目指す。継続的な単語学習や問題演習の機会を設けることで、効果的な言語学習を日常生活で行動に移しながら、自ら外国語を効果的に学修する力を身につける。また、文章の意図を理解しながら、状況に応じた表現を行うことができる記述力を養成する。

担当教員	高橋未希
授業形態	講義・演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

編入試験を目標に、英文読解に必要な力を養成する。

国立大学入試問題に相当する英文を扱いながら、読解に必要な基本的な知識および読解力をつけていく。

また、語彙力の養成に努めるとともに、話題として取り上げられたことに関する基礎的知識を豊かにする。

英語学習では反復学習が重要になるため、授業の予習はしっかりと行い、提出物はしっかりとやってくること。

わからないところはそのままにせず、教員の説明を聞いたり、質問するなどしてその時間内に理解できるようにすること。

到達目標

目標を下記の3点とする。

読解力：読解に必要な速読力や要点把握力を形成する。

語彙力：語源を生かした語彙力の増強に努める。

知識を深める：社会や文化について論じた英文を読むことで広い視野を形成する。

各回の内容

1. オリエンテーション / 英文の構造について

2. 中文読解演習 演繹展開その1

3. 中文読解演習 演繹展開その2

4. 中文読解演習 演繹展開その3

5. 中文読解演習 同形反復その1

6. 中文読解演習 同形反復その1

7. 中文読解演習 同形反復その1

8. まとめテスト

9. 中文読解演習 帰納展開 その1

10. 中文読解演習 帰納展開 その2

11. 中文読解演習 帰納展開 その3

12. 中文読解演習 指示語の読み取り その1

13. 中文読解演習 指示語の読み取り その2

14. 中文読解演習 代名詞の読み取り その1

15. 中文読解演習 代名詞の読み取り その2

16. 試験

英語

準備学習（予習・復習等）

指定された演習問題を予め解いておくこと。

小テスト対策を十分に行うこと

学内・学外で自主課題に積極的に取り組むこと。

* 語学学習では復習が重要なので、復習の時間を各自確保すること

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

グループ討議やペアワークを取り入れ、主体的で対話的な問題解決の場を設定する。

評価方法

授業態度 10%

試験 60%

単語テスト 30%

教科書

適宜配布を行う

参考文献

必要に応じて配布する。

履修の際は英語 を合わせて受講することを推奨する。

韓国語

科目のねらい

本科目は、外国語の基礎的な知識を修得し、異文化コミュニケーションに必要な表現力と行動力を養うための共通科目である。
(外国語科目群)

担当教員	梁 姫淑
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1,2年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

韓国語は語彙と語順が日本語と似ているため、日本語を話す人にとってもっとも学びやすい外国語である。授業では、初級レベルの文法や句型を身につけ、それらを用いて簡単な会話や作文ができるようになることを目指す。質問の仕方や答え方を身につけたり、自己紹介や買い物、食事などの場面で使える簡単な表現を学び、受講生が韓国語及び韓国文化に親しみを感じるように手助けをする。

到達目標

ハングルの文字を正しく書き、正確に発音できる。
挨拶や自己紹介などの基礎的な会話ができる。
新出語彙を使って短い文を作ることができる。
韓国語学習を通じて韓国の文化に触れる。
キーボードでハングルを打つことができる。

各回の内容

1. オリエンテーション(ハングルの基本構造について)
2. 母音
3. 複合母音
4. 子音
5. バッチム
6. <自己紹介> ~ / (は) ~ / (です/ですか)
7. <否定文> /가(～が) (ではない)
8. <用言文>用言+ /ㅁ (です、ます)、助詞の使い方
9. 動詞、用言+ /
10. 指示詞、漢数詞
11. 時期や時刻の表現
12. 動詞や形容詞の否定文
13. 動詞+ / (～てください)
14. ハングルキーボードの打ち方
15. まとめ
16. 試験

韓国語

準備学習（予習・復習等）

毎回の授業内容をきちんと復習する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

韓国文化に親しみを有てるように、簡単な会話など、日常的な場面を実践的に学ぶ。授業では、語彙を中心とした文字学習、CDを活用した発音習得、ワークシートを利用した書き方の練習も会話の練習と共に行う。

評価方法

出席・授業態度：30%、ミニテストと提出物：10%、期末テストの成績：60%

教科書

崔柄珠著『おはよう韓国語1』朝日出版社

参考文献

授業内で指示する

ベーシックスキルズ

科目のねらい

本科目は、ビジネス社会での基本となる日本語能力、コミュニケーション力、情報の活用法などの技術を身につけ（DP1）、卒業後の進路を含めたライフキャリアをデザインする力を培うための共通科目である。

担当教員	後藤・山野・津田・狩野・岩井
授業形態	演習
学期	集中
必修・選択の別	必修
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

高校生から短大生への転換をするための導入教育として大学生にとって基礎的な「学習スキル」と「日本語力」の習得をする。また、キャリア形成を行うための初年次教育として位置づけられ、キャリア形成にとって重要な「コミュニケーション力」の習得する。

到達目標

大学生として基礎的な「学習スキル」と「日本語力」、また、キャリア形成にとって重要な「コミュニケーション力」の習得ができる。

各回の内容

1.	大学で学ぶために	短期大学で学修する意義	基礎	90分×1回分の授業（動画配信：遠隔授業）	4/28
2.	大学で学ぶために	短期大学で学修する意義	応用	90分×1回分の授業（動画配信：遠隔授業）	4/28
3.	大学で学ぶために	履修の意義と方法		90分×1回分の授業（講義）	
			学科専攻別	5/7, 5/8	
4.	レポート教室1	レポートの基礎・新聞読解講座		90分×1回分の授業（動画配信：遠隔授業）	6/27
5.	レポート教室2	短期大学における文章読解	基礎	90分×1回分の授業	6/27
6.	新聞読解講座	課題提出		90分×1回分の授業（Forms:学科専攻別）	7/4
7.	未来創造講座			90分×4回分の授業（学科専攻別）	10/10, 10/17
8.	レポート教室3	短期大学における文章読解	応用	90分×1回分の授業	7/10
9.	レポート教室4	短期大学における文章作成	基礎	90分×1回分の授業	7/31
10.	レポート教室5	短期大学における文章作成	応用	90分×1回分の授業	10/30
11.	レポート教室6	短期大学における研究論文	基礎	90分×1回分の授業	11/6
12.	レポート教室7	短期大学における研究論文	応用	90分×1回分の授業	11/27

ベーシックスキルズ

準備学習（予習・復習等）

入学前教育として配布されたテキストとを熟読し準備学習を行う。さらに、日本語のe-learningを行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

・ e-learningを活用した反転授業形式で、ビジネス社会での基本となる日本語能力を向上させる場面を設定する。

評価方法

「未来創造講座」の課題の評価 30点満点。レポート教室課題の評価 70点満点。総計100点以上は100点とする。

教科書

日本語検定試験テキスト

参考文献

必要に応じ、都度紹介する。

キャリアデザイン

科目のねらい

本科目は、ビジネス社会の基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職・編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようにするための共通科目である。（キャリア開発科目群）

担当教員	狩野・加藤・津田・岩井
授業形態	講義・演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

選択科目であるが、履修することが望ましい。

キャリアデザイン ~ で、連続する科目の一つ。

全体を通して、ワークキャリア・ライフキャリアを考え、卒業後の進路を明確にするとともに、日本語力等を含む社会人基礎力を、主体的に学ぶ力を養う。

到達目標

学業社会から就業社会へのブリッジを行うために、キャリアデザインの必要性を理解し、将来のライフデザインの基礎を築くことができる。

各自のスキルに合った日本語検定試験の準備を主体的に行うことができる。

汎用的なスキルの現状と改善計画を作成することができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、汎用ルーブリックによる自己評価、日本語検定模擬試験の実施
2. キャリアデザインの意味と、進路、土台の基礎力の必要性、日本語能力アップ演習1 4/15 日本語検定講座
3. 日本語能力アップ演習2 4/22 日本語検定講座
4. 日本語能力アップ演習3 5/13 日本語検定講座
5. 日本語能力アップ演習4 5/20 日本語検定講座
6. 日本語能力アップ演習5 5/27 日本語検定講座
7. 日本語能力アップ演習6 6/3 日本語検定講座
8. 日本語能力アップ演習7 6/10 日本語検定講座
9. 日本語能力アップ演習8
10. 社会で普遍的に求められる能力 = コンピテンシーを測る（PROG診断）
11. 働くとは：進路の詳細スケジュール、数的思考能力をつける
12. 学科・専攻・コースごとに働くイメージを考える
13. 自分のコンピテンシーを知り、改善計画を練る
14. キャリアプラン・ライフプラン
15. まとめ、期末レポート課題発表

キャリアデザイン

準備学習（予習・復習等）

事前：他の履修科目で関連する事柄を整理しておく。

事後：指示された課題を期日までに提出する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・日本語検定試験の実践講習、PROGテストを基にした基礎的数学能力講習など、実践的な礎学力の定着を図る。

評価方法

毎回の振り返り（15回×5点）=75%、課題作成=25%

教科書

大学生のための日本語問題集，ナカニシヤ出版（合格時に郵送済）

必要に応じてプリント等配布する。

参考文献

第1回目で、本学図書館の蔵書の中から関連する書籍一覧を紹介するので、都度読んでほしい。

キャリアデザイン

科目のねらい

本科目は、ビジネス社会の基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職・編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようにするための共通科目である。（キャリア開発科目群）

担当教員	山野・堺・狩野・高橋・畑・元井・築
授業形態	講義 演習 高藤（瑛）
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全1年生
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

卒業後の進路(一般企業への就職、公務員、銀行系、四年生大学や専門学校への進学)を見据え、社会人として身につけておくべき素養の中で、特に基礎学力を向上させることを目的とする。それぞれの進路に合わせてコースを設定予定であり、詳細は追って指示する。なか、全体で講義を行う場合もあるので、適宜掲示を見ること。

到達目標

自己の進路を見据え、主体的に参加し学習を進めることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション

2. 社会人基礎力演習1

3. 社会人基礎力演習2

4. 社会人基礎力演習3

5. 社会人基礎力演習4

6. 社会人基礎力演習5

7. 社会人基礎力演習6

8. 社会人基礎力演習7

9. 社会人基礎力演習8

10. 社会人基礎力演習9

11. 社会人基礎力演習10

12. 社会人基礎力演習11

13. 社会人基礎力演習12

14. 社会人基礎力演習13

15. 社会人基礎力演習14

キャリアデザイン

準備学習（予習・復習等）

1年前期の学習を振り返り、自己の強み・弱みを把握しておく。
選択したコースで指示された事前・事後学習を行う。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

進路選択に合わせたグループを構成し、担当教員を配置して指導する。
各グループの指導内容に合わせて、実務家等のゲストを招聘する。
各グループ毎の各回の内容については、初回に提示する

評価方法

毎回の参加態度、講義・演習の進捗状況等、学習成果を各回5点×15回を100点換算し、その結果を踏まえて、総合的に判断し評価する。

教科書

なし
適宜資料を配布

参考文献

都度紹介する。

ビジネス実務

科目のねらい

ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職・編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる（キャリア開発科目群）。本科目では、特に「ビジネス社会での基本となるビジネス実務の基礎を身につける」ことをねらいとする。また、「ビジネス社会での基本となるコミュニケーション力を身につける」及び敬語学習と演習を通し、「ビジネス社会での基本となる日本語能力を身につける」ことも含む。

担当教員	加藤竜哉他兼任教員
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科 1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

ビジネス実務士資格の必修科目

選択科目であるが、限りなく履修することが進路（編入・就職）活動の観点から望ましい。

ビジネス実務を基礎から演習や課題学習を通して学習する。実社会のマナー獲得と、進路（就職・編入）面接対応スキルの基礎を学び、コミュニケーション力を高める。

到達目標

- 1) ビジネス社会で求められる基礎的なマナーを、講義や演習、実践問題を通して習得する。そのうえで、企業が求めている人材や働くことの意味を考え、自分の言葉で説明することができる。
- 2) 実社会で求められている数的解決能力をeラーニングで身につけることができる。
- 3) 対面授業の課題とオンデマンドの課題を遅滞なく提出することができる。（2020年のみ追加）

各回の内容

1. 『対面授業』企業が求める人材とビジネスマナーの必要性,eラーニングの学習：集合授業
- オリエンテーションには全体の学習内容、評価方法、試験に関する説明も含む - 次週までの課題有
2. 『対面授業』服装と身だしなみ、立ち居振る舞い： ビジネススーツ着用(購入済の学生)
- 靴、ジャケット、ブラウス、パンツorスカート着用のポイントと立ち居振る舞いの演習 -
3. 【オンデマンド】コミュニケーションの概要とビジネス会話 配布資料で課題作成 提出有
- ビジネス・コミュニケーションの概要を学び、普通の会話とビジネス会話の違いを学習する -
4. 『対面授業』基本的な挨拶、就業中のルール： Webミニテスト有
- 挨拶のルールや、企業内就業中のルールを演習を通して学習する -
5. 【オンデマンド】敬語、接遇用語、クッション言葉 配布資料で課題作成 提出有
- 敬語（丁寧語、尊敬語、謙譲語）、接遇用語、クッション言葉を学ぶ -
6. 『対面授業』訪問時の基本、アポイントメント、名刺交換： ビジネススーツ着用(購入済の学生)
- 訪問時の基本を学び、演習を通して学んだ内容の確認、名刺交換も行う -
7. 【オンデマンド】敬語の実際： Webミニテスト有 配布資料で課題作成 提出有
- 敬語使用の実際を、事例を通して学習し、自己の敬語の改善点を見つけ出す -
8. 『対面授業』来客対応、エレベータ、お見送り、案内、応接室でのマナー：
ビジネススーツ着用(購入済の学生) 本学内の環境を使い演習し、自己の課題を洗い出す -
9. 【オンデマンド】ビジネスメールの基本マナー： 送信課題有 配布資料で課題作成 提出有
- メールは、ビジネスで必須のツール。内容と送受信のルールを学び、送信課題を行う -
10. 『対面授業』報告・連絡・相談の重要性、会議の進め方： Webミニテスト有
- ビジネス社会のハウレンソウと、会議の進め方を学び、演習を通して経験する -
11. 【オンデマンド】ビジネス文書の基本 ビジネス文書作成課題有 配布資料で課題作成 提出有
- 社外文書、社内文書の基本をおさえ、良くない文書、進路活動での作成文書の留意点を学ぶ -
12. 【オンデマンド】ビジネス実務に関するWBTチェック、何度でも受験可能（ただし最終期日有）
- Web形式の正誤問題全45問を解きながら、自己の弱点を知り今後の学習に役立てる -
13. 『対面授業』電話対応のポイント、電話をかける： Webミニテスト有
- 電話対応のポイント：かける、うける、取り次ぐ等、電話対応での禁止事項を演習を通して学ぶ -
14. 『対面授業』ビジネス文書の実践（お礼状と封筒）： 配布資料で課題作成 提出有
- お礼状の作成ポイント、封筒へのあて名書きのポイントを学び、指示された課題作成を行う -
15. 『対面授業』期末試験に向けて、PC室でBCSA受診
- 記述ブロックの期末試験とコミュニケーション力の現状をBCSAで診断する -
16. 試験：Webテスト（知識試験）、記述試験（全3問）

ビジネス実務

準備学習（予習・復習等）

テキストの指定範囲を読み授業に備える。日頃から自分の言動を意識する。

事前学習：次回学習する該当ページを事前に精読してくる。

事後学習：振り返りシートの振り返り、小テストなどの復習。普段の生活に学んだことを取り入れる

今年度は、第8週目から第16週で15回の授業を行うので、主体的学習が特に望まれる。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目の講師は、実社会で活躍したあるいは現在活躍している講師であり、国家資格キャリアコンサルタントを有する講師が3名いる。ライフキャリアやワークキャリアを意識した事例を盛り込みながら、グループワーク、演習、グループディスカッションを毎回取り入れている。ただし三密の回避対策はできる範囲で可能な限り実施して行う。ICTを活用して、オンデマンドのコンテンツ学習や、eラーニングの課題を実施する。コンピュータ診断を利用して、コミュニケーション力を診断する。

事前にシラバスのような粗設計ではなく、各回のコース設計、レッスン設計を行っており、各回開始前には各回の目標と授業内容の確認、授業終了後には学生の状況確認などを行う方法を取り入れている。

評価方法

- 1) 毎回の振り返りシート30%（各回5点×15回を満点として30%換算する）：Form上に提出
- 2) オンデマンド受講，ミニテスト実施課題提出で30%（全体の満点合計を100%として30%換算する）
- 3) 期末テスト40%（テストの満点を100%として40%に換算する）

教科書

- ・これだけ知っておけば大丈夫! 「ビジネスマナー」のきほん 翔泳社 2018年
- ・本学より配布のキャリアハンドブック
- ・本学作成の資料を印刷配布・デジタルコンテンツ配布

参考文献

その都度、授業で紹介する。

ビジネス実務

科目のねらい

<キャリア開発科目群>ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる。本科目では特に、「ビジネス社会での基本となるコミュニケーション力を身につける」ことを柱とし、前期の学習を振り返りながら新たな演習を加えて「ビジネス社会での基本となる日本語能力を身につける」「ビジネス社会での基本となるビジネス実務の基礎を身につける」の2つも含んでいる。

担当教員	加藤竜哉他兼任教員
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	全学科 1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

ビジネス実務士資格の必修科目

選択であるが、進路（編入・就職）を考え、限りなく履修することが望ましい。ビジネス＝一般事務ではない。卒業後栄養士・幼稚園教諭や保育士としてビジネス社会で活躍するための土台を作る科目である。

特に、ビジネスコミュニケーション力を高める多くの演習を行う。「わかる」と「できる」の違いを把握し、「できるつもり」を「できる」へ昇華させる。

到達目標

- 1) 前期の各種診断ツール結果等や演習を通じ、自己理解を深め、自分の強みを自分の言葉で表現できる。
- 2) ビジネス社会の仕事の基本を講義と演習やグループワークを通して学習し、ビジネスの基礎となるコミュニケーションの考え方とスキルを身につける。卒業後の進路を確実に拓くための社会人基礎力を養うことができる。
- 3) 前期に診断したBCSA結果を自己評価し、改善につなげることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション、自己分析の必要性和先輩学生の失敗事例紹介、BCSA診断解説 課題配布
- 科目全体の流れ、評価方法、試験についても解説を含む -
2. 自分の弱み・強みを知り、自己PRへつなぐ 課題有
- 演習を通して、自己の強み・弱みを知り、自己理解を深める -
3. 自己PRを改善する 課題有
- 自己PR改善のポイントを学ぶ、PROGの結果を踏まえた学習を含む -
4. エントリーシート(特にOpenES)と履歴書
- エントリーの現状と、履歴書の作成を演習を通して学ぶ -
5. 電話対応演習 eラーニング学習課題
- 学生が苦手な電話対応を演習を通して学ぶ -
6. 立ち居振る舞い、面接訓練と相互評価・改善 ビジネススーツ着用
- 面接の評価ポイントを学び、演習を通して相互評価し、改善ポイントを導く -
7. 物理的環境の整備
- ビジネスコミュニケーションの信頼性スキル(1)を、演習を通して学ぶ -
8. 信頼獲得と維持 ビジネススーツ着用
- ビジネスコミュニケーションの信頼性スキル(2)を、演習を通して学ぶ -
9. 言語・非言語の効果的使用 ミニCBT課題
- ビジネスコミュニケーションの信頼性スキル(3)を、演習を通して学ぶ -
10. 心理的環境の管理
- ビジネスコミュニケーションの共感性スキル(1)を、演習を通して学ぶ -
11. 表現方法の調整
- ビジネスコミュニケーションの共感性スキル(2)を、演習を通して学ぶ -
12. 共感、質問と応答、共感情報の発信
- ビジネスコミュニケーションの共感性スキル(3)を、演習を通して学ぶ -
13. アクティブリスニング：相手からのメッセージへの対応 ミニCBT課題
- ビジネスコミュニケーションの共感性スキル(4)を、演習を通して学ぶ -
14. コミュニケーションの準備と評価(1) ミニCBT課題
- ビジネスコミュニケーションの理論性スキル(1)(2)を、演習を通して学ぶ -
15. コミュニケーションの準備と評価(2)、期末試験のための学習方法
- ビジネスコミュニケーションの理論性スキル(1)(2)を、演習を通して学ぶ -
16. 試験(試験日は、試験・補講期間日程として掲示)

ビジネス実務

準備学習（予習・復習等）

事前学習：テキストの指定範囲を必ず精読し、授業に備える。

事後学習：振り返りシートの振り返り、小テストや確認テストなどの復習。学習した内容を、普段の生活に取り入れ、日頃から自分の言動の変化を意識し、PDCAサイクルを回す。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目を担当する専任・兼任教員は実務経験者または現在実務で活躍しており、国家資格キャリアコンサルタントを有している。毎回のグループワーク、グループディスカッション、実演習を盛り込んでいる。また、CBTによるミニ演習を15回の単元で10回行っている。すべての学科・専攻・コースの学生が卒業後も使うことができるスキル獲得を学ぶ。また、2年次の進路（編入・就職）での活動ポイントや留意点も、演習を通して学ぶ。よって、単なるマナー科目ではない。

評価方法

- 1) 毎回の振り返りシート 10% (各回5点×15回を満点として10%換算する)
- 2) 理解度確認用eラーニングテスト20%(全体の満点合計を100%として20%換算する)
- 3) 課題提出 20% (3つの課題)
- 4) 期末テスト 50% (テストの満点を100%として50%に換算する)

教科書

- ・『ザ・コミュニケーション 気づいたわかる、できて身につく社会で輝く9つのスキル』翔泳社、2015年
- ・ビジネス実務 で使用したテキスト、本学作成のキャリアハンドブック
- ・必要に応じプリント配布

参考文献

マイルズ・L・バターソン著、大坊郁夫監修訳、ことばにできない想いを伝える - 非言語コミュニケーションの世界 - , 誠信書房, 2013

情報演習 (CE)

科目のねらい

本科目は、「キャリア開発科目群」の目的である「ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる」ことに関し、特に「ビジネス社会での基本となる情報の活用法などのスキルを身につける」ことをねらいとする科目である。

担当教員	加藤竜哉他
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	CE1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

授業の概要

【キャリア教養学科】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際に必要な情報リテラシーを習得する。

到達目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問(90%)解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で300字以上入力することができる。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル(情報倫理Webテストについて)

2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
- 2年間利用する学内ネットワークを学び、4月時点の自己のタイピング能力を把握する -

3. Wordの基本(1)
- Wordの基本操作を演習を通して学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

4. Wordの基本(2)
- Wordの基本操作を演習を通して学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

5. 見やすいスライドを作る、スライド作成のテクニック
- 他科目でも利用するPowerPointを演習を通して学ぶ -

6. プレゼンテーション資料の作成
- プレゼンテーション資料作成演習を通して、PowerPointの基本操作をできるようにする -

7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
- Wordの表作成演習を通し、わかりやすい文書作成技法を学ぶ -

8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(1)
- 卒業後の実社会を想定したビジネス文書作成の基本を演習を通して学ぶ -

9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(2)、図等を活用して魅せる文書を作成する
- わかりやすいビジネス文書作成について、演習を通して学ぶ -

10. Excelの基本
- 表計算作成の基本を学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

11. 仕事で利用する関数を使いこなす(1)
- ビジネス社会でよく使用される関数について、演習を通して使いこなせるようにする -

12. 仕事で利用する関数を使いこなす(2)
- ビジネス社会でよく使用される関数について、演習を通して使いこなせるようにする -

13. 伝えるグラフを作る(1)
- グラフ作成の目的、種類、作成方法を学び、伝えるグラフ作成を演習する -

14. 伝えるグラフを作る(2)
- 様々なグラフ作成を演習で学び、ビジネス社会で通用するグラフ作成を学ぶ -

15. シート操作、データベースを活用する、試験範囲、課題提出について(再)
- Excel内のデータベースについて学び、活用方法を演習する -

16. 期末試験
- テキスト、資料等持ち込み不可、確認テスト及び、PCを利用した成果物作成等 -

情報演習 (CE)

準備学習（予習・復習等）

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

- ・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。(7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい)
- ・タイピングの自学自習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、全ての回で講義・演習を行い、都度課題を保存していきながら、単元ごとの目標を達成する科目である。学生個々の進度が異なるので、学生の疑問を解消しながら演習を行う。担当教員は、情報教育に長年携わっており、双方向授業を実践している。各回の授業前後にミーティングを行いながら、それぞれのクラスの進度や理解状況を把握しながら進めている。

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

- 1) 正しい指使いで10分間のタイピング300字以上(300字未満0%、300字～350字10%、350字～400字15%、400字以上20%)
- 2) 課題作成40%、期末試験40%(実践課題作成30%、知識確認10%)

情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題(noa出版)

必要に応じプリント配布

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (CE)

科目のねらい

本科目は、情報演習 の継続・応用学習として、「キャリア開発科目群」の目的である「ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる」ことに関し、特に「ビジネス社会での基本となる情報の活用法などのスキルを身につける」ことをねらいとする。

担当教員	内海, 菅野
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	キャリア教養学科1年
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

授業の概要

キャリア教養学科学生対象の情報演習

情報演習 履修合格者対象科目

講義と演習を通し、実社会で活用できるICTスキル獲得を目指す。情報演習 の基礎的位置づけ。Webサイトを使った確認テストを都度行う。また、情報演習基礎(情報演習 相当)の課題作成を行い、スキルを定着させる。

到達目標

実践的な問題解決スキルを、収集・分析・整理・表現・運用の課題を通して身に付けることができる。

情報演習基礎（情報演習 相当）の課題作成を通し、基本的スキルの範囲が確実にできる。

各回の内容

1. 情報検索と進路に必要な力
- 情報検索能力の基礎を演習を通して学習する -
2. 情報運用、eラーニング学習（非言語処理能力）と評価
- ビジネス社会で必須の情報運用を学ぶ -
3. 数値分析（1）：データの加工
- 情報演習 で学習内容を振り返りながら、一歩進んだデータ加工を学ぶ -
4. 数値分析（2）：データの分析
- 情報演習 で学習内容を振り返りながら、一歩進んだデータ分析を学ぶ -
5. データベース
- 情報演習 で学習内容を振り返りながら、一歩進んだデータ分析を学ぶ -
6. ファイル・データ管理
- Windowsのファイルやデータ管理の手法と陥りやすいミスを学ぶ -
7. インターネットコミュニケーション
- インターネットにおけるつながりとコミュニケーションをより深く学ぶ -
8. 情報発信のルール
- インターネットのセキュリティ基礎を学び、情報発信のモラルを学ぶ -
9. 文書表現
- 情報演習 で学習内容を振り返りながら、一歩進んだ文書表現を学ぶ -
10. ビジュアル表現
- 情報演習 で学習内容を振り返りながら、一歩進んだプレゼンテーション技法を学ぶ -
11. 成功するプレゼンテーション
- 卒業後の社会を見据えた、様々なシーンで成功を導くプレゼンテーション技法を学ぶ -
12. 発表資料の準備
- 学習内容を踏まえ、課題に対する発表資料作成の準備を行う -
13. 発表資料の作成
- 発表資料の作成を行う -
14. 発表模擬演習と評価
- 発表を行い、相互評価を実施する -
15. まとめ
- 学習を振り返り、重要ポイントの復習と確認を行う -
16. 試験
- テキスト、資料等持ち込み不可、確認テスト及び、PCを利用した成果物作成等 -

情報演習 (CE)

準備学習（予習・復習等）

- 『事前学習』教科書の各セクションが1回に相当するのでセクションを予習してくる。
- 『事後学習』授業内容の復習、課題の作成、CBTによる確認テストの実施

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、全ての回で講義・演習を行い、都度課題を保存していきながら、単元ごとの目標を達成する科目である。学生個々の進度が異なるので、学生の疑問を解消しながら演習を行う。担当教員は、情報教育に長年携わっており、双方向授業を実践している。各回の授業前後にミーティングを行いながら、それぞれのクラスの進度や理解状況を把握しながら進める。

評価方法

課題提出30%、Sectionテスト25%（CBT：理解度把握システム(Nestシステム)を利用）、模擬演習25%（CBTテスト含む）、情報演習基礎（情報演習 相当）の課題作成20%

教科書

- ・考える伝える分かちあう 情報活用力（2017年11月発行第4版）、noa出版 株式会社ワークアカデミー
- ・情報演習 のテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (D)

科目のねらい

本科目は、「キャリア開発科目群」の目的である「ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる」ことに関し、特に「ビジネス社会での基本となる情報の活用法などのスキルを身につける」ことをねらいとする科目である。

担当教員	加藤竜哉他
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	D1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

授業の概要

【食物栄養専攻】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際に必要な情報リテラシーを習得する。

到達目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問(90%)解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で300字以上入力することができる。
高校まででPCを学んできた者は、「わかるつもりやできるつもり」を確実に「わかる&できる」ようにする。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル（情報倫理Webテストについて）

2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
- 2年間利用する学内ネットワークを学び、4月時点の自己のタイピング能力を把握する -

3. Wordの基本（1）
- Wordの基本操作を演習を通して学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

4. Wordの基本（2）
- Wordの基本操作を演習を通して学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

5. 見やすいスライドを作る、スライド作成のテクニック
- 他科目でも利用するPowerPointについて、演習を通して学ぶ -

6. プレゼンテーション資料の作成
- プレゼンテーション資料作成演習を通して、PowerPointの基本操作をできるようにする -

7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
- Wordの表作成演習を通し、わかりやすい文書作成技法を学ぶ -

8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる（1）
- 卒業後の実社会を想定したビジネス文書作成の基本を演習を通して学ぶ -

9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる（2）、図等を活用して魅せる文書を作成する
- わかりやすいビジネス文書作成について、演習を通して学ぶ -

10. Excelの基本
- 表計算作成の基本を学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

11. 仕事で利用する関数を使いこなす(1)
- ビジネス社会でよく使用される関数について、演習を通して使いこなせるようにする -

12. 仕事で利用する関数を使いこなす(2)
- ビジネス社会でよく使用される関数について、演習を通して使いこなせるようにする -

13. 伝えるグラフを作る(1)
- グラフ作成の目的、種類、作成方法を学び、伝えるグラフ作成を演習する -

14. 伝えるグラフを作る(2)
- 様々なグラフ作成を演習で学び、ビジネス社会で通用するグラフ作成を学ぶ -

15. シート操作、データベースを活用する、試験範囲、課題提出について（再）
- Excel内のデータベースについて学び、活用方法を演習する -

16. 期末試験
- テキスト、資料等持ち込み不可、確認テスト及び、PCを利用した成果物作成等 -

情報演習 (D)

準備学習（予習・復習等）

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。(7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい)およびタイピングの練習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、全ての回で講義・演習を行い、都度課題を保存していきながら、単元ごとの目標を達成する科目である。学生個々の進度が異なるので、学生の疑問を解消しながら演習を行う。担当教員は、情報教育に長年携わっており、双方向授業を実践している。各回の授業前後にミーティングを行いながら、それぞれのクラスの進度や理解状況を把握しながら進める。

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

1) 正しい指使いで10分間のタイピング300字以上(300字未満0%、300字～350字10%、350字～400字15%、400字以上20%)

2) 課題作成40%、期末試験40%(実践課題作成30%、知識確認10%)

情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題(noa出版)

必要に応じプリント配布

参考文献

都度紹介する。

情報演習 (D)

科目のねらい

本科目は、情報演習の継続学習として、「キャリア開発科目群」の目的である「ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる」ことに関し、特に「ビジネス社会での基本となる情報の活用法などのスキルを身につける」ことを演習を通して学ぶ科目である。

担当教員	菅野 浩子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物栄養専攻1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

授業の概要

生活科学科1年生対象

情報演習 履修合格者対象科目

実社会で最も利用されているExcelを使用し、実務中心の演習を行いながら、表計算作成能力を向上させる。演習を着実に積み上げ、「わかるつもり」を「わかる」へ、「できるつもり」を「できる」にする。

到達目標

実社会で利用頻度の高い表計算作成ソフトを使い演習を行う。「効率性」と「誰のために何を作るのか」を常に意識できる。（栄養士の視点での活用についても適宜解説）

各回の内容

1. 集計表：学習の方向。実社会での表計算事例、セルの書式、グラフの基本
- 情報演習の内容を振り返り、成果物作成時のポイントを学ぶ -
2. 商品別販売状況：データベースの並べ替え、絶対参照を利用する意義
- 成果物作成演習 1 -
3. 週別販売状況：スパークラインの利用、平均と最大・最小を求める意義
- 成果物作成演習 2 -
4. 売上達成率表：四捨五入関数の利用、グラフの編集
- 成果物作成演習 3 -
5. 保健室利用状況表：順位関数を利用する意義
- 成果物作成演習 4 -
6. 売上表：グラフの編集、効率的な関数の利用
- 成果物作成演習 5 -
7. テスト成績表：バランスを見るグラフ作成、シートの編集
- 成果物作成演習 6 -
8. 勤務状況表：データの数え方、並べ替えとテーブルスタイル
- 成果物作成演習 7 -
9. 経費内訳表：関数及びセルのスタイル
- 成果物作成演習 8 -
10. 売上比較表
- 成果物作成演習 9 -
11. 都市別世代別人口表
- 成果物作成演習 10 -
12. 販売数量表
- 成果物作成演習 11 -
13. 生活費の年間集計表
- 成果物作成演習 12 -
14. 総合演習
- 学んだことを総動員して、総合的な成果物を作成する -
15. まとめ
- 学習を振り返り、「わかるつもり・できるつもり」を抽出し、「わかる・できる」へつなぐ -
16. 試験
- テキスト、資料等持ち込み不可、課題に対する成果物作成等 -

情報演習 (D)

準備学習（予習・復習等）

- <履修前> 情報演習 のExcel部分の復習を行い、不明点・不安な点を整理しておく。
- <授業前学習> 各回の演習問題を行って、わからない・わかるつもり、できない・できるつもりが何かを明らかにする。
- <授業後学習> 毎回の振り返りと課題の作成・保存

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、全ての回で講義・演習を行い、都度課題を保存していきながら、単元ごとの目標を達成する科目である。学生個々の進度が異なるので、学生の疑問を解消しながら演習を行う。担当教員は、情報教育に長年携わっており、双方向授業を実践している。各回の授業前後にミーティングを行いながら、それぞれのクラスの進度や理解状況を把握しながら進める。

評価方法

毎回の課題作成（指示された課題の提出×課題数を100%として60%換算）60%、期末試験40%

教科書

- ・『Excel表計算処理技能認定試験 3級問題集（2013対応）』株式会社サーティファイ 2013/8
- ・情報演習 のテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

その都度授業で紹介する。

情報演習 (CH)

科目のねらい

本科目は、「キャリア開発科目群」の目的である「ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる」ことに関し、特に「ビジネス社会での基本となる情報の活用法などのスキルを身につける」ことをねらいとする科目である。

担当教員	加藤竜哉他兼任教員
授業形態	演習
学期	前期
必修・選択の別	必修
対象学生	CH1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

授業の概要

【こども保育コース】

高校までのPCスキルを再確認しながら、自身の弱点を補強する。実社会のデファクトスタンダードとなっているOffice系アプリケーションを中心に演習を行う。また、情報倫理や情報セキュリティの基礎を学習し、普段の生活の中での情報機器を使う際のセキュリティスキルを習得する。

到達目標

- 1) 文書作成技法、表計算作成技法、プレゼンテーション技法を横断的に演習し、単なる操作演習ではない実社会においてICT活用能力を獲得するための基本スキルを習得することができる。
- 2) 情報倫理Webテストで35問中32問(90%)解くことができる。
- 3) 正しい指使いでタイピングをし、10分間で350字以上入力することができる。
高校まででPCを学んできた者は、「わかるつもり・できるつもり」を確実に「わかる・できる」ようにする。

各回の内容

1. 情報の基礎力確認テスト実施、タイピング能力テスト、ネット検索及び情報モラル(情報倫理Webテストについて)

2. 学内ネットワークの利用と留意点、タイピング能力
- 2年間利用する学内ネットワークを学び、4月時点の自己のタイピング能力を把握する -

3. Wordの基本(1)
- Wordの基本操作を演習を通して学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

4. Wordの基本(2)
- Wordの基本操作を演習を通して学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

5. 見やすいスライドを作る、スライド作成のテクニック
- 他科目でも利用するPowerPointについて、演習を通して学ぶ -

6. プレゼンテーション資料の作成
- プレゼンテーション資料作成演習を通して、PowerPointの基本操作をできるようにする -

7. 表を使い文書をわかりやすくまとめる
- Wordの表作成演習を通し、わかりやすい文書作成技法を学ぶ -

8. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(1)
- 卒業後の実社会を想定したビジネス文書作成の基本を演習を通して学ぶ -

9. ビジネス文書作成のポイントを押さえる(2)、図を活用して魅せる文書を作成する
- わかりやすいビジネス文書作成について、演習を通して学ぶ -

10. Excelの基本
- 表計算作成の基本を学ぶ。高校で学習してきた者は、確実にできるようにする -

11. 仕事で利用する関数を使いこなす(1)
- ビジネス社会でよく使用される関数について、演習を通して使いこなせるようにする -

12. 仕事で利用する関数を使いこなす(2)
- ビジネス社会でよく使用される関数について、演習を通して使いこなせるようにする -

13. 伝えるグラフを作る(1)
- グラフ作成の目的、種類、作成方法を学び、伝えるグラフ作成を演習する -

14. 伝えるグラフを作る(2)
- 様々なグラフ作成を演習で学び、ビジネス社会で通用するグラフ作成を学ぶ -

15. シート操作、データベースを活用する、試験範囲、課題提出について(再)
- Excel内のデータベースについて学び、活用方法を演習する -

16. 期末試験
- テキスト、資料等持ち込み不可、確認テスト及び、PCを利用した成果物作成等 -

情報演習 (CH)

準備学習（予習・復習等）

<事前学習> 各回の前に該当テキストの読み込みと、疑問点の抽出

<事後学習> 指示されたファイルの作成と保存

<主体的学習>

・情報倫理ハンドブックの自学自習と合格。(7月末までに90%以上正解で合格。何度でも受験可。テキストを見てもよい)およびタイピングの練習

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、全ての回で講義・演習を行い、都度課題を保存していきながら、単元ごとの目標を達成する科目である。学生個々の進度が異なるので、学生の疑問を解消しながら演習を行う。担当教員は、情報教育に長年携わっており、双方向授業を実践している。各回の授業前後にミーティングを行いながら、それぞれのクラスの進度や理解状況を把握しながら進める。

評価方法

7月末までに情報倫理webテスト合格している者が前提：不合格者再履修

1) 正しい指使いで10分間のタイピング300字以上(300字未満0%、300字～350字10%、350字～400字15%、400字以上20%)

2) 課題作成40%、期末試験40%(実践課題作成30%、知識確認10%)

情報の基礎学力確認テストは、自己を知るために行い、評価には使用しない。

教科書

『実践ドリルで学ぶOffice活用術2013対応 Word・Excel・PowerPoint2013 演習問題全150題』noa出版
必要に応じプリント配布

参考文献

その都度、授業で紹介する。

情報演習 (CH)

科目のねらい

本科目は、情報演習の継続学習として、「キャリア開発科目群」の目的である「ビジネス社会での基本となる日本語能力、ビジネス実務の基礎、コミュニケーション力、情報の活用法などのスキルを身につけ、卒業後の進路（就職、編入等）を含めたライフキャリアをデザインできるようになる」ことに関し、特に「ビジネス社会での基本となる情報の活用法などのスキルを身につける」ことを演習を通して学ぶ科目である。

担当教員	菅野 浩子
授業形態	演習
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育コース1年生
時間数	90分×15回、期末試験
単位数	2

授業の概要

生活科学科1年生対象 Dとの合同授業

情報演習 履修合格者対象科目

実社会で最も利用されているExcelを使用し、実務中心の演習を行いながら、表計算作成能力を向上させる。

演習を着実に積み上げ、「わかるつもり」を「わかる」へ、「できるつもり」を「できる」にする。

到達目標

実社会で利用頻度の高い表計算作成ソフトを使い演習を行う。「効率性」と「誰のために何を作るのか」を常に意識できる。（保育士の視点での活用についても適宜解説）

各回の内容

1. 集計表：学習の方向。実社会での表計算事例、セルの書式、グラフの基本
- 情報演習の内容を振り返り、成果物作成時のポイントを学ぶ -
2. 商品別販売状況：データベースの並べ替え、絶対参照を利用する意義
- 成果物作成演習 1 -
3. 週別販売状況：スパークラインの利用、平均と最大・最小を求める意義
- 成果物作成演習 2 -
4. 売上達成率表：四捨五入関数の利用、グラフの編集
- 成果物作成演習 3 -
5. 保健室利用状況表：順位関数を利用する意義
- 成果物作成演習 4 -
6. 売上表：グラフの編集、効率的な関数の利用
- 成果物作成演習 5 -
7. テスト成績表：バランスを見るグラフ作成、シートの編集
- 成果物作成演習 6 -
8. 勤務状況表：データの数え方、並べ替えとテーブルスタイル
- 成果物作成演習 7 -
9. 経費内訳表：関数及びセルのスタイル
- 成果物作成演習 8 -
10. 売上比較表
- 成果物作成演習 9 -
11. 都市別世代別人口表
- 成果物作成演習 10 -
12. 販売数量表
- 成果物作成演習 11 -
13. 生活費の年間集計表
- 成果物作成演習 12 -
14. 総合演習
- 学んだことを総動員して、総合的な成果物を作成する -
15. まとめ
- 学習を振り返り、「わかるつもり・できるつもり」を抽出し、「わかる・できる」へつなぐ -
16. 試験
- テキスト、資料等持ち込み不可、課題に対する成果物作成等 -

情報演習 (CH)

準備学習(予習・復習等)

- <履修前> 情報演習 のExcel部分の復習を行い、不明点・不安な点を整理しておく。
- <授業前学習> 各回の演習問題を行って、わからない・わかるつもり、できない・できるつもりが何かを明らかにする。
- <授業後学習> 毎回の振り返りと課題の作成・保存

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

本科目は、全ての回で講義・演習を行い、都度課題を保存していきながら、単元ごとの目標を達成する科目である。学生個々の進度が異なるので、学生の疑問を解消しながら演習を行う。担当教員は、情報教育に長年携わっており、双方向授業を実践している。各回の授業前後にミーティングを行いながら、それぞれのクラスの進度や理解状況を把握しながら進める。

評価方法

毎回の課題作成(指示された課題の提出×課題数を100%として60%換算)60%、期末試験40%

教科書

- ・『Excel表計算処理技能認定試験3級問題集(2013対応)』株式会社サーティファイ 2013/8
- ・情報演習 のテキスト
- ・本学作成資料

参考文献

その都度授業で紹介する。

体育講義

科目のねらい

本科目は、身体の機能、体力の概念を理解した上で、体育の意義を理解する科目である。その上で、心身の健康と運動について理解を深めながら「自分」を客観視し、自己の存在に気づき、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を養うことができるようになるための科目である。(健康科学科目群)

担当教員	堺 秋彦
授業形態	講義
学期	前期集中
必修・選択の別	選択
対象学生	全1、2年
時間数	90分×7.5回(集中)
単位数	1

授業の概要

体育、運動生理学について講義をし、その後講義の内容に基づきクイズ形式で授業を進める。体育の「歴史、概念、意義、ねらい」や「人間の発達段階」、「体力の概念」を知り、運動と健康について考える。運動が心身の健康のためにどれだけ大切なのかを理解したうえで、自分自身の健康をはじめ将来母親になったときに、わが子の健康をも考えることができるようにする。また、最後にクイズで出した問題の中からテストする。授業は2日に分けた集中でおこなう。

到達目標

- (1) 体育の歴史を通して、今日ある体育の意義を知り、何を目指した教科なのかを理解することができる。
- (2) 人間の身体の構造や機能、体力の概念を理解し、運動が心身に与える効果を知り実践することができる。

各回の内容

1. 体育の歴史と定義
2. 体育の意義と内容
3. 現代における体育の課題
4. 人間の発達(スキャモンの発育型)
5. 身体の構造と機能
6. 運動の効果(健康の定義 運動と健康 体力の概念 生涯スポーツについて)
7. テスト
8. まとめ

体育講義

準備学習（予習・復習等）

- ・規則正しい生活習慣を心掛け、自分の身体を意識する。
- ・復習として、配布した参考資料並びに「身体」「発育発達」「運動」に関する内容を、本を読んだり、インターネットで調べ、「身体の特徴」と「運動」の関係性について理解を深める。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・スライドとレジュメに基づき講義する。
- ・グループで、課題（クイズ形式）を行い、対話的に考える場面を設定する。

評価方法

課題（クイズ）20%
テスト80%

教科書

なし。授業で資料を配布する。

参考文献

幼稚園教育要領、小学校教育指導要領、中学校教育指導要領（保健体育編）、高等学校教育指導要領（保健体育編）

体育実技

科目のねらい

本科目は、各種スポーツや多様なゲームを通して、他者と協力をしながら、身体を動かす楽しさを実感すると共に、自分の体力や能力を理解し、一方で、感情や気分を客観視し、自己の心と体の状態を捉えるための科目である。また、自己理解に基づき、自分の能力を存分に発揮し、自己を高めていくための科目でもある。（健康科学科目群）

担当教員	堺秋彦
授業形態	実技
学期	後期
必修・選択の別	選択
対象学生	食物・キャリア1・2年生
時間数	15
単位数	1

授業の概要

「基礎体力トレーニング」や「ゲーム」、「エクササイズ」を通じて、身体を動かす楽しさや心地よさを実感し、自分の健康を意識することを目指し授業をおこなう。本授業は、技能向上を目指したのではなく運動を楽しみながら、基礎体力向上をを目指した授業であるので、運動が苦手な人、日頃運動不足な人を歓迎する。

到達目標

「スポーツ」は体育の教材であり、楽しくおこなうことが前提であることを理解したうえで、それぞれのスポーツや運動に含まれる「楽しさの要素」を感じ取りながら、からだを動かす楽しさと喜びを感じることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 基礎体力トレーニング・ゲーム1・スポーツ1
3. 基礎体力トレーニング・ゲーム2・スポーツ2
4. 基礎体力トレーニング・ゲーム3・スポーツ3
5. 基礎体力トレーニング・ゲーム4・スポーツ4
6. 基礎体力トレーニング・ゲーム5・スポーツ5
7. 基礎体力トレーニング・ゲーム6・スポーツ6
8. 基礎体力トレーニング・ゲーム7・スポーツ7
9. 基礎体力トレーニング・ゲーム8・スポーツ8
10. 基礎体力トレーニング・ゲーム9・スポーツ9
11. 基礎体力トレーニング・ゲーム10・スポーツ10
12. 基礎体力トレーニング・ゲーム11・スポーツ11
13. 基礎体力トレーニング・ゲーム12・スポーツ12
14. 基礎体力トレーニング・ゲーム13・スポーツ13
15. まとめ

体育実技

準備学習（予習・復習等）

規則正しい生活習慣を心がけると共に、毎日30分以上の歩行を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・グループで運動を行い、コミュニケーションを図る場面を設定する。
- ・グループで、授業内容を企画、準備を行う等、対話的場面を設定する。
- ・グループで、企画した内容を協同しながら進行する場面を設定する。

評価方法

運動量＜授業態度含＞（挨拶方法や身だしなみ、また、各回の内容に基づいて、
適切に身体を動かしているかを評価する）50%
授業構成＜模擬授業計画書等＞（創作性、指導方法を評価する）50%

教科書

なし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

その都度授業で紹介する。

体育実技

科目のねらい

本科目は、各種スポーツや多様なゲームを通して、他者と協力をしながら、身体を動かす楽しさを実感すると共に、自分の体力や能力を理解し、一方で、感情や気分を客観視し、自己の心と体の状態を捉えるための科目である。また、自己理解に基づき、自分の能力を存分に発揮し、自己を高めていくための科目でもある。（健康科学科目群）

担当教員	堺秋彦
授業形態	実技
学期	前期
必修・選択の別	選択
対象学生	こども保育1年生
時間数	90分×15回
単位数	1

授業の概要

「スポーツ遊び」を通じて、身体を動かす楽しさや心地よさを実感し自分の健康を意識することを目指し授業をおこなう。本授業は、技能向上を目指したものではなく「運動を楽しむ」ことを目指した授業であるので、運動が苦手な人、日頃運動不足な人を歓迎する。

到達目標

- (1) 「スポーツ」は体育の教材であり、楽しくおこなうことが前提であることを理解する。
 (2) それぞれのスポーツや運動に含まれる「楽しさの要素」を感じ取りながら、からだを動かす楽しさと喜びを感じることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
2. 基礎体力トレーニング・ゲーム1
3. 基礎体力トレーニング・ゲーム2・スポーツ1
4. 基礎体力トレーニング・ゲーム3・スポーツ2
5. 基礎体力トレーニング・ゲーム4・スポーツ3
6. 基礎体力トレーニング・ゲーム5・スポーツ4
7. 基礎体力トレーニング・ゲーム6・スポーツ5
8. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ（1班担当）
9. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ（2班担当）
10. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ（3班担当）
11. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ（4班担当）
12. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ（5班担当）
13. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ（6班担当）
14. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ（7班担当）
15. 基礎体力トレーニング・ゲーム・スポーツ（8班担当）

体育実技

準備学習（予習・復習等）

規則正しい生活習慣を心がけ、毎日30分以上の歩行を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・グループで運動を行い、コミュニケーションを図る場面を設定する。
- ・グループで、授業内容を企画、準備を行う等、対話的場面を設定する。
- ・グループで、企画した内容を協同しながら進行する場面を設定する。

評価方法

運動量＜授業態度含＞（挨拶方法や身だしなみ、また、各回の内容に基づいて、
適切に身体を動かしているかを評価する）50%
授業構成＜模擬授業計画書等＞（創作性、指導方法を評価する）50%

教科書

なし。必要に応じて資料を配布する。

参考文献

その都度紹介する。

食育論

科目のねらい

本科目は、現代の食に関する問題を「国民栄養健康調査」及び「食育基本法」から理解し(DP1)、ライフステージ・暮らし・環境を考慮した食育計画の作成し(DP2-1)、検討し合うことで(DP2-2)、食を起因とする健康課題に、多様な人々と協働して解決に取り組める力をつける(DP3)ための専門科目である。

担当教員	土屋久美
授業形態	講義
学期	後期
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養専攻1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

現代の食に関する課題を理解するために、「国民栄養健康調査」、「食育基本法」等の内容を学び、省庁・自治体・学校等が実施している食育活動の事例を知る。学童期、成人期、高齢期等ライフステージ別の食育計画を作成し、発表、評価を行い、食育活動の方法を学ぶ。また、フードコーディネーターとしての必要な知識・技術を学ぶ。

到達目標

- (1)「食育基本法」の概要から、現代の食に関する問題や課題を把握できる。
- (2)食育推進活動の内容を理解できる。
- (3)ライフステージ別の食育計画を作成することができる。
- (4)食育活動に携われる知識と実践力を身につけることができる。

各回の内容

1. オリエンテーション
-「食育」の定義
2. 食育基本法制定の背景と社会的意義
-法制定の背景と食育基本法の具体的内容
3. 食育に必要なエビデンスについて
-「国民健康栄養調査」の推移と課題
4. 国・自治体の食育推進計画の背景と施策
-具体的な取り組み事例
5. 学校・保育所等の食育について
-取り組み事例に学ぶ
6. 高齢者施設における食育について
-具体的な取り組み事例
7. 事業所給食における食育について
-具体的な取り組み事例
8. 幼児期・学童期対象者の食育計画の立案
9. 勤労者対象の食育計画の立案
10. 高齢者対象の食育計画の立案
11. 食育計画、実践内容の発表
12. フードコーディネート1 食空間のあり方
13. フードコーディネート2 食空間と内装デザイン
14. フードコーディネート3 食空間とテーブルコーディネート
15. フードコーディネート4 テーブルマナーとサービス
16. 試験

食育論

準備学習（予習・復習等）

- ・配布された資料を読んでおく
- ・食に関連する報道に関心を持つ

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

- ・資料内容について意見を求め全体で深めていく
- ・授業者の栄養教諭時の実践事例を用いる
- ・食育計画の立案、実践内容は、グループでのアクティブラーニングとする

評価方法

- ・食育計画の作成、発表40%
- ・試験60%

教科書

「食育基本法」(内閣府)、「第三次食育基本計画」(農林水産省)、「国民健康栄養調査」(厚生労働省)を配布
授業者作成のプリント

参考文献

辻とみ子・堀田千津子編『新版ヘルス21栄養教育・栄養指導論』医歯薬出版
藤原葉子『エビデンスで差がつく食育』光生館

フードマネジメント（食品安全性論）

科目のねらい

本科目は、食品学で学んだことを基礎とし、食品の品質管理や衛生調査法を理解し（DP1）、現代社会で重要な食品の安全性を守るための手法を応用する（DP3）ための専門科目である。

担当教員	市川 優
授業形態	講義
学期	通年
必修・選択の別	必修
対象学生	食物栄養学専攻1年
時間数	90分×15回
単位数	2

授業の概要

世界と日本の社会状況の変化に伴い、私たちの食生活は大きく変わりつつあり、食の外部化が進んでいる。栄養士、フードサイエンティストとして、安全・安心かつ豊かな「食」を提供できるよう、衛生管理手法の理論と実践を学ぶ。

到達目標

栄養士、フードサイエンティストは、安全・安心かつ豊かな「食」を提供するための役割を担っていることを理解する。
 食の外部化の現状・課題・対応方法について理解する。
 最新の食と健康・栄養情報を理解する。
 CCPの理論を理解し実践できるようになる。
 食品製造・商品開発の事例を理解する。

各回の内容

1. 食品の安全性と暮らし(1)
福島食の安全性
2. 食品の安全性と暮らし(2)
日本と世界の食の安全性
3. 食品の安全性と暮らし(3)
栄養士とフードサイエンティストの役割
4. 食品表示 (1)
生鮮食品・加工食品の表示
5. 食品表示 (2)
加工食品の表示・栄養成分表示
6. 食品表示 (3)
食品表示の作成
7. 食品衛生の実際
8. フードファディズムと食品の安全性
9. 生物多様性と食品の安全性
10. HACCP
衛生・品質管理の基本的考え方
11. サプリメントの利用と効用
食と健康セミナー
12. 食品衛生関連法規(1)
食品衛生法
13. 食品衛生関連法規(2)
食品安全基本法、食品表示法
14. 遺伝子組換え食品とゲノム編集食品(1)
これからの食の安全性を考える
15. 遺伝子組換え食品とゲノム編集食品(2)
食の安全性を確保するための手法を考える

フードマネジメント（食品安全性論）

準備学習（予習・復習等）

予習：指定された課題・テーマについて、授業前に文献・インタ-ネットを通じて調べておくこと。

復習：各授業内容で学んだことを復習することを基本とし、毎回レポート提出を実施する。

短期大学設置基準では、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められております。本学では講義、演習については、原則として15時間の授業をもって1単位としています*ので、1単位の講義、演習については、30時間、2単位の講義、演習については60時間の予習・復習が必要となります(実験・実習は除く)。 *学則第24条

教育方法

主に講義および実習形式で行う。單元ごとにレポートの作成を行う。

評価方法

レポート100%(25点 4回)

教科書

教科書はなし。各回の授業でプリント・資料を配布する。

参考文献

厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生・食品安全部監視安全課HACCP企画推進室(2015年10月発行)「食品製造におけるHACCP入門のための手引書」改訂版